学校コード F130310109389
注３

設置年度　　平成　　31年度

計画の区分：　大学の設置
注１

認可

注2

和歌山信愛大学

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人和歌山信愛女学院
令和４年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名	教学センター
職名・氏名	事務長（ジムチョウ）・塩﨑（シオザキ）　増仁（マスヒト）
電話番号	073-488-3120
（夜間）	090-8014-8951
ｅ－mail	shiozaki@shinai-u.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し，その下欄に
（　　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　〇〇大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」

３　学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

教育学部

＜子ども教育学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８

４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４

1　調査対象大学等の概要等

（1）設　置　者

学校法人和歌山信愛女学院

（2）大　学　名

和歌山信愛大学

（3）調査対象大学等の位置

〒６４０－８０２２
和歌山県和歌山市住吉町１番地

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（ モリタ　トシコ ） 森田　登志子 （平成21年1月）		
学　　長	（ モリタ　トシコ ） 森田　登志子 （平成31年4月）		
学 部 長	（ オオヤマ　テルミツ ） 大山　輝光 （平成31年4月）		
学科長等		（ チモリ　トクコ ） 千森　督子 （平成31年4月1日） （元）	管理運営組織の充実を図るため

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）令和３年度に報告済の内容　→（３）
令和４年度に報告する内容　→（４）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５） 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和４年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
・ 様式は、平成３０年度開設の４年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和４年度までの５年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学部 子ども教育学科 学士（教育学）	教育学・保育学関係	年 4	人 80	年次 人 —	人 320	 新規入学者を募集中	

（注）・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

（５）－② 調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成３０年度		令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 （ ） [ ]	人 [ ]	80人 （ — ） [—]	—人 [—]	80人 （ — ） [—]	—人 [—]	80人 （ — ） [—]	—人 [—]	80人 （ — ） [—]	人 [—]	0.93倍	—倍	
志願者数	（ ） [ ]	（ ） [ ]	128 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	158 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	134 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	101 （ — ） [—]	— （ — ） [—]			
受験者数	（ ） [ ]	（ ） [ ]	113 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	139 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	116 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	95 （ — ） [—]	— （ — ） [—]			
合格者数	（ ） [ ]	（ ） [ ]	97 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	118 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	107 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	90 （ — ） [—]	— （ — ） [—]			
B 入学者数	（ ） [ ]	（ ） [ ]	83 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	82 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	68 （ — ） [—]	— （ — ） [—]	68 （ — ） [—]	— （ — ） [—]			
入学定員超過率 B／A			1.03		1.02		0.85		0.85				

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・ （ ）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [ ]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和４年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学年	平成３０年度		令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	[　　] (　　)	[　　] (　　)	83 [—] (—)	— [—] (—)	82 [—] (—)	— [—] (—)	69 [—] (1)	— [—] (—)	69 [—] (1)	— [—] (—)	
２年次			— [—] (—)	— [—] (—)	82 [—] (—)	— [—] (—)	79 [—] (—)	— [—] (—)	69 [—] (1)	— [—] (—)	
３年次					— [—] (—)	— [—] (—)	82 [—] (—)	— [—] (—)	76 [—] (—)	— [—] (—)	
４年次							— [—] (—)	— [—] (—)	82 [—] (—)	— [—] (—)	
計	[　　] (　　)		83 [　—　] (　—　)		164 [　—　] (　—　)		230 [　—　] (　1　)		296 [　—　] (　2　)		

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・　[　　]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・（　）内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分／対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
			入学した年度	退学者数	うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	83 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	1 人	0 人	進路希望の変更(1人)
令和2年度	164 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	2 人	0 人	進路希望の変更(1人)、他の教育機関への入学(1人)
令和3年度	230 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、除籍(1人)
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	296 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合　計		5 人		5 人	0 人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（〇人）」というように、その人数も含めて記入してください。

（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

平成30年度の退学者数(a) / 平成30年度の在学者数(b) = 0 / 0 = #DIV/0! %

【令和元年度】

令和元年度の退学者数(a) / 令和元年度の在学者数(b) = 1 / 83 = 1.2 %

【令和2年度】

令和2年度の退学者数(a) / 令和2年度の在学者数(b) = 2 / 164 = 1.21 %

【令和3年度】

令和3年度の退学者数(a) / 令和3年度の在学者数(b) = 2 / 230 = 0.86 %

【令和4年度】

令和4年度の退学者数(a) / 令和4年度の在学者数(b) = 0 / 296 = 0 %

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

２　授業科目の概要

＜教育学部　子ども教育学科＞

（１）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
共通基礎科目	信愛教育Ⅰ	1通	1			1					
	信愛教育Ⅱ	2通	1			1					
	いのちと倫理	1後	2			1					
	ボランティア実習	1通	1			1			1	1	
	日本国憲法	1前	2								兼1
	ヘルスプロモーション科学	1前		2							兼1
	情報処理論	1前		2		1					
	国際教育論	1後		2							兼1
	人類生態学概論	2前		2							兼1
	子どもと遊び	1後		2							兼1
	子どもと文学	2前		2							兼1
	こころの科学	2後		2		1					
	生命と進化	2後		2							兼1
	現代メディア論	2前		2							兼1
	日本語表現	1前	1			1					
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				1				
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				1				
	フランス語コミュニケーション	2前		1							兼1
	中国語コミュニケーション	2前		1							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1後	1			1					
	情報処理演習Ⅱ	2前	1			1					
	スポーツと健康Ⅰ（講義）	1前	1			1					
	スポーツと健康Ⅱ（実技）	1通	1			1					
	教職キャリアデザイン	1通	1			1	1				
	教職基礎ゼミナール	1通	2			4	1	1	1		
	教職基礎実習	1通	1				1	1		1	
	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	3通		2		2					
	キャリアガイダンスⅠ	3通	1			1	1				
	キャリアガイダンスⅡ	4通		1		1	1				
	教師への道Ⅰ	3前		2		1				1	
	教師への道Ⅱ	3後		2		1				1	
	教師への道Ⅲ	4前		2		1				1	
	世界の中の和歌山	1前	2								兼1
	歴史・文化と風土	1後		2							兼1
	郷土の自然	1後		2							兼1
	まちづくりの経済学	2前		2							兼1
	地域の生活文化	2前		2		1					
	文学と郷土	2後		2							兼1
	地域力再生論	2前	2			1			1		
	地域連携フィールド学習	1通		1		1			1		
	地域連携フィールドゼミナール	2通	4			2	1	1	1		
	地域防災教育論	3後	2								兼1
	小計（42科目）	－	29	40	0	8	2	2	1	2	
専門教育科目	教職論	1前	2			1					
	教育原理	1前	2			1					
	保育原理	1前	2				1				
	教育制度論	1後	2			1					
	児童家庭福祉	1後	2								兼1
	社会福祉	2前	2								兼1
	社会的養護	2後	2			1					
	教育方法論	1後	2								兼1
	教育課程総論	1前	2								兼1
	保育課程論	1後	2								兼1
	保育内容総論	1前	1								兼1

【令和４年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
共通基礎科目	信愛教育Ⅰ	1通	1			1					
	信愛教育Ⅱ	2通	1			1					
	いのちと倫理	1後	2			1					
	ボランティア実習	1通	1			1			1	1	
	日本国憲法	1前	2								兼1
	ヘルスプロモーション科学	1前		2							兼1
	情報処理論	1前		2		1					
	国際教育論	1後		2							兼1
	人類生態学概論	2前		2							兼1
	子どもと遊び	1後		2							兼1
	子どもと文学	2前		2							兼1
	こころの科学	2後		2		1					
	生命と進化	2後		2							兼1
	現代メディア論	2前		2							兼1
	日本語表現	1前	1			1					
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				1				
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				1				
	フランス語コミュニケーション	2前		1							兼1
	中国語コミュニケーション	2前		1							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1後	1			1					
	情報処理演習Ⅱ	2前	1			1					
	スポーツと健康Ⅰ（講義）	1前	1			1					
	スポーツと健康Ⅱ（実技）	1通	1			1					
	教職キャリアデザイン	1通	1			1	1				
	教職基礎ゼミナール	1通	2			4	1	1	1		
	教職基礎実習	1通	1				1	1		1	
	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	**2通**		2		2					
	キャリアガイダンスⅠ	3通	1			1	1				
	キャリアガイダンスⅡ	4通		1		1	1				
	実践キャリア教育	**4前**		**2**							**兼1**
	教師への道Ⅰ	3前		2		1				1	
	教師への道Ⅱ	3後		2		1				1	
	教師への道Ⅲ	4前		2		1				1	
	世界の中の和歌山	1前	2								兼1
	歴史・文化と風土	1後		2							兼1
	郷土の自然	1後		2							兼1
	まちづくりの経済学	2前		2							兼1
	地域の生活文化	2前		2		1					
	文学と郷土	2後		2							兼1
	地域力再生論	2前	2			1			1		
	地域連携フィールド学習	1通		1		1			1		
	地域連携フィールドゼミナール	2通	4			2	1	1	1		
	地域防災教育論	3後	2								兼1
	小計（**43**科目）		29	**42**	0	8	2	2	1	2	
専門教育科目	教職論	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								**兼2**
	保育原理	1前	2				1				
	教育制度論	1後	2			1					
	子ども家庭福祉	1後	2								兼1
	社会福祉	2前	2								兼1
	社会的養護	2後	2			1					
	教育方法論（ICT活用含む）	1後	2								兼1
	教育課程総論	1前	2								兼1
	保育の計画と評価	1後	2								兼1
	保育内容総論	1前	1								兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国語(書写を含む)	2前		2		1					兼1
	算数	2後		2				1			
	理科	2前		2		1				1	
	社会	2後		2							兼1
	図画工作Ⅰ	1前		1		1				1	
	図画工作Ⅱ	1後		1		1				1	
	音楽Ⅰ	1前		1			1	1			
	音楽Ⅱ	1後		1			1	1			
	器楽	2通		2			1	1			
	体育	2前		1							兼1
	生活Ⅰ	1前		1		1				1	
	生活Ⅱ	1後		1		1				1	
	家庭	2後		1		1				1	兼2
	初等英語	2後		1			1				
	子どもと環境	1後		1		1				1	
	子どもの言葉	1後		1		1					
	子どもの表現Ⅰ	1後		1		1		1		1	
	子どもの表現Ⅱ	2前		1		1		1		1	
	音楽表現研究	3前		1				1			
	造形表現研究	3前		1		1				1	
	幼児体育Ⅰ	3前		1							兼1
		3後									
	幼児体育Ⅱ	3後		1							兼1
	保育の表現技術(言葉)	3前		1							兼1
	鍵盤演奏入門	1前		1			1				
	鍵盤楽器の表現技法	3通		2			1				
専門教育科目	発達心理学	1前	2			1					
	教育心理学	1後	1			1					
	幼児理解の理論と方法	2前	2			1					
	子どもの保健ⅠA	2前		2							兼1
	子どもの保健ⅠB	2後		2							兼1
	子どもの保健Ⅱ	3前		1							兼1
	子どもの食と栄養Ⅰ	3前		1						1	兼1
	子どもの食と栄養Ⅱ	3後		1						1	兼1
	特別支援教育・保育Ⅰ	3前	1			1					
	特別支援教育・保育Ⅱ	3後	1			1					
	社会的養護内容	3前		1							兼1
	相談援助	3前		1			1				
	教育相談支援	3前	2			1					
	地域と子育て支援	3後		2			1				
	保育相談支援	3後		1			1				
	生徒指導・進路指導の理論と方法	3前		2		1					
	保育内容の指導法Ⅰ	2後	2							1	兼1
	保育内容の指導法Ⅱ	3前	2							1	兼1
	初等教科教育法(国語)	2後	2			1					兼1
	初等教科教育法(算数)	3前		2				1			
	初等教科教育法(社会)	3前		2							兼1
	初等教科教育法(理科)	3前		2		1				1	
	初等教科教育法(英語)	3前		2			1				
	初等教科教育法(生活)	2後	2			1				1	
	初等教科教育法(音楽)	2後	1				1				
	初等教科教育法(図画工作)	2後	1			1				1	
	初等教科教育法(家庭)	3前		1						1	兼1

【令和４年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国語(書写を含む)	2前		2		1					兼1
	算数	2後		2				1			
	理科	2前		2		1				1	
	社会	2後		2							兼1
	図画工作Ⅰ	1前		1		1				1	
	図画工作Ⅱ	1後		1		1				1	
	音楽Ⅰ	1前		1			**2**				
	音楽Ⅱ	1後		1			**2**				
	器楽	2通		2			**2**				
	体育	2前		1							兼1
	生活Ⅰ	1前		1		1				1	
	生活Ⅱ	1後		1		1				1	
	家庭	2後		1		1				1	兼2
	初等英語	2後		1			1				
	子どもと環境	1後		1		1				1	
	子どもの言葉	**2前**		1		1					
	子どもの表現Ⅰ	1後		1		1	**1**			1	
	子どもの表現Ⅱ	2前		1		1	**1**			1	
	音楽表現研究	3前		1			**1**				
	造形表現研究	3前		1		1				1	
	幼児体育Ⅰ	3前		1							兼1
		3後									
	幼児体育Ⅱ	3後		1							兼1
	鍵盤演奏入門	1前		1			1				
	鍵盤楽器の表現技法	3通		2			1				
専門教育科目	発達心理学	1前	2			1					
	教育心理学	1後	1			1					
	子ども家庭支援の心理学	**3前**		**2**							**兼1**
	幼児理解の理論と方法	2前	2			1					
	子どもの保健	**2後**		**2**							**兼1**
	子どもの健康と安全	**3前**		**1**							**兼1**
	子どもの食と栄養Ⅰ	3前		1						1	兼1
	子どもの食と栄養Ⅱ	3後		1						1	兼1
	特別支援教育・保育Ⅰ	3前	1			1					
	特別支援教育・保育Ⅱ	3後	1			1					
	社会的養護演習	3前		1							兼1
	子育て支援演習	**3前**		**1**			**1**				
	教育相談支援	3前	2			1					
	地域と子育て支援	3後		2			1				
	生徒指導・進路指導の理論と方法	3前		2							**兼2**
	保育内容の指導法Ⅰ	2後	2							1	兼1
	保育内容の指導法Ⅱ	3前	2							1	兼1
	初等教科教育法(国語)	2後	2			1					兼1
	初等教科教育法(算数)	3前		2				1			
	初等教科教育法(社会)	3前		2							兼1
	初等教科教育法(理科)	3前		2		1				1	
	初等教科教育法(英語)	3前		2			1				
	初等教科教育法(生活)	2後	2			1				1	
	初等教科教育法(音楽)	2後	1				1				
	初等教科教育法(図画工作)	2後	1			1				1	
	初等教科教育法(家庭)	3前		1						1	兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	初等教科教育法(体育)	2後	1								兼1
	道徳教育指導論	3前		2							兼1
	特別活動指導論	2後		1							兼1
	総合的な学習の時間指導論	3前		2				1			
	乳児保育Ⅰ	3前		1							兼1
	乳児保育Ⅱ	3後		1							兼1
	幼稚園実習Ⅰ	2通		2				1		1	
	幼稚園実習Ⅱ	3通		2				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅰ	2通		1				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅱ	3通		1				1		1	
	小学校実習	3通		4			1			1	
	小学校実習指導	3通		1			1			1	
	保育実習Ⅰ(保育所)	3通		2				1		1	
	保育実習Ⅰ(施設)	2後 3前		2			1			1	
	保育実習Ⅱ	3後		2				1		1	
	保育実習Ⅲ	4前		2			1			1	
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3通		1				1		1	
	保育実習指導Ⅰ(施設)	2後 3前		1			1			1	
	保育実習指導Ⅱ	3後		1				1		1	
	保育実習指導Ⅲ	4前		1			1			1	
	保育内容実践研究	3通		2		1	1	2		2	
	教科実践研究	3通		2		2	1	1		2	
	教職実践演習(幼・小)	4後		2		2		1		2	
	保育・教職実践演習(幼)	4後		2			1	2		2	
	専門ゼミナールⅠ	3通	2			6	2	2			
	専門ゼミナールⅡ	4通	2			6	2	2			
	卒業研究	4通	4			6	2	2			
	小計(90科目)	−	49	92	0	7	3	3	1	4	
合計(132科目)		−	78	132	0	10	3	3	1	4	

卒業要件及び履修方法

・必修科目78単位、選択必修科目25単位、共通基礎科目と専門教育科目の選択科目から21単位以上を履修し、124単位以上修得すること。
・選択必修科目の履修方法は以下の通りとする。
共通基礎科目:教育者の教養4単位、リテラシー1単位、紀の国わかやまと世界4単位　専門教育科目:教科・保育内容の専門領域14単位、実践研究2単位
・履修科目の登録の上限は49単位(年間)とする。

【令和４年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	初等教科教育法(体育)	2後	1								兼1
	道徳教育指導論	3前		2							兼1
	特別活動指導論	2後		1							兼1
	総合的な学習の時間指導論	3前		2				1			
	乳児保育Ⅰ	3前		**2**							兼1
	乳児保育Ⅱ	3後		1							兼1
	幼稚園実習Ⅰ	2通		2				1		1	
	幼稚園実習Ⅱ	3通		2				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅰ	2通		1				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅱ	3通		1				1		1	
	小学校実習	3通		4			1	**1**		1	
	小学校実習指導	3通		1			1	**1**		1	
	保育実習Ⅰ(保育所)	3通		2				1		1	
	保育実習Ⅰ(施設)	2後 3前		2			1			1	
	保育実習Ⅱ	3後		2				1		1	
	保育実習Ⅲ	4前		2			1			1	
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3通		1				1		1	
	保育実習指導Ⅰ(施設)	2後 3前		1			1			1	
	保育実習指導Ⅱ	3後		1				1		1	
	保育実習指導Ⅲ	4前		1			1			1	
	保育内容実践研究	3通		2		1	**2**	**1**		2	
	教科実践研究	3通		2		2	1	1		2	
	教職実践演習(幼・小)	4後		2		2		1		2	
	保育・教職実践演習(幼)	4後		2			**2**	**1**		2	
	専門ゼミナールⅠ	3通	2			6	**3**	**1**			
	専門ゼミナールⅡ	4通	2			6	**3**	**1**			
	卒業研究	4通	4			6	**3**	**1**			
	小計(**88**科目)	−	49	**91**	0	7	**4**	**2**	0	4	
合計(**131**科目)		−	78	**133**	0	10	**4**	**2**	1	4	

卒業要件及び履修方法

・必修科目78単位、選択必修科目25単位、共通基礎科目と専門教育科目の選択科目から21単位以上を履修し、124単位以上修得すること。
・選択必修科目の履修方法は以下の通りとする。
共通基礎科目:教育者の教養4単位、リテラシー1単位、紀の国わかやまと世界4単位　専門教育科目:教科・保育内容の専門領域14単位、実践研究2単位
・履修科目の登録の上限は49単位(年間)とする。

【令和３年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	信愛教育Ⅰ	1通	1			1					
	信愛教育Ⅱ	2通	1			1					
	いのちと倫理	1後	2			1					
	ボランティア実習	1通	1			1			1	1	
	日本国憲法	1前	2								兼1
	ヘルスプロモーション科学	1前		2							兼1
	情報処理論	1前		2		1					
	国際教育論	1後		2							兼1
	人類生態学概論	2前		2							兼1
	子どもと遊び	1後		2							兼1
	子どもと文学	2前		2							兼1
	こころの科学	2後		2		1					
	生命と進化	2後		2							兼1
	現代メディア論	2前		2							兼1
	日本語表現	1前	1			1					
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				1				
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				1				
	フランス語コミュニケーション	2前		1							兼1
	中国語コミュニケーション	2前		1							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1後	1			1					
	情報処理演習Ⅱ	2前	1			1					
	スポーツと健康Ⅰ（講義）	1前	1			1					
	スポーツと健康Ⅱ（実技）	1通	1			1					
	教職キャリアデザイン	1通	1			1	1				
	教職基礎ゼミナール	1通	2			4	1	1	1		
	教職基礎実習	1通	1				1	1		1	
	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	3通		2		2					
	キャリアガイダンスⅠ	3通	1			1	1				
	キャリアガイダンスⅡ	4通		1		1	1				
	教師への道Ⅰ	3前		2		1				1	
	教師への道Ⅱ	3後		2		1				1	
	教師への道Ⅲ	4前		2		1				1	
	世界の中の和歌山	1前	2								兼1
	歴史・文化と風土	1後		2							兼1
	郷土の自然	1後		2							兼1
	まちづくりの経済学	2前		2							兼1
	地域の生活文化	2前		2		1					
	文学と郷土	2後		2							兼1
	地域力再生論	2前	2			1			1		
	地域連携フィールド学習	1通		1		1			1		
	地域連携フィールドゼミナール	2通	4			2	1	1	1		
	地域防災教育論	3後	2								兼1
	小計（42科目）	－	29	40	0	8	2	2	1	2	
	教職論	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								**兼2**
	保育原理	1前	2				1				
	教育制度論	1後	2			1					
	子ども家庭福祉	1後	2								兼1
	社会福祉	2前	2								兼1
	社会的養護	2後	2			1					
	教育方法論	1後	2								兼1
	教育課程総論	1前	2								兼1
	保育の計画と評価	1後	2								兼1
	保育内容総論	1前	1								兼1

【令和２年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	信愛教育Ⅰ	1通	1			1					
	信愛教育Ⅱ	2通	1			1					
	いのちと倫理	1後	2			1					
	ボランティア実習	1通	1			1			1	1	
	日本国憲法	1前	2								兼1
	ヘルスプロモーション科学	1前		2							兼1
	情報処理論	1前		2		1					
	国際教育論	1後		2							兼1
	人類生態学概論	2前		2							兼1
	子どもと遊び	1後		2							兼1
	子どもと文学	2前		2							兼1
	こころの科学	2後		2		1					
	生命と進化	2後		2							兼1
	現代メディア論	2前		2							兼1
	日本語表現	1前	1			1					
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				1				
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				1				
	フランス語コミュニケーション	2前		1							兼1
	中国語コミュニケーション	2前		1							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1後	1			1					
	情報処理演習Ⅱ	2前	1			1					
	スポーツと健康Ⅰ（講義）	1前	1			1					
	スポーツと健康Ⅱ（実技）	1通	1			1					
	教職キャリアデザイン	1通	1			1	1				
	教職基礎ゼミナール	1通	2			4	1	1	1		
	教職基礎実習	1通	1				1	1		1	
	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	3通		2		2					
	キャリアガイダンスⅠ	3通	1			1	1				
	キャリアガイダンスⅡ	4通		1		1	1				
	教師への道Ⅰ	3前		2		1				1	
	教師への道Ⅱ	3後		2		1				1	
	教師への道Ⅲ	4前		2		1				1	
	世界の中の和歌山	1前	2								兼1
	歴史・文化と風土	1後		2							兼1
	郷土の自然	1後		2							兼1
	まちづくりの経済学	2前		2							兼1
	地域の生活文化	2前		2		1					
	文学と郷土	2後		2							兼1
	地域力再生論	2前	2			1			1		
	地域連携フィールド学習	1通		1		1			1		
	地域連携フィールドゼミナール	2通	4			2	1	1	1		
	地域防災教育論	3後	2								兼1
	小計（42科目）	－	29	40	0	8	2	2	1	2	
	教職論	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								**兼2**
	保育原理	1前	2				1				
	教育制度論	1後	2			1					
	子ども家庭福祉	1後	2								兼1
	社会福祉	2前	2								兼1
	社会的養護	2後	2			1					
	教育方法論	1後	2								兼1
	教育課程総論	1前	2								兼1
	保育の計画と評価	1後	2								兼1
	保育内容総論	1前	1								兼1

【令和３年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門教育科目	国語(書写を含む)	2前		2		1					兼1
	算数	2後		2				1			
	理科	2前		2		1				1	
	社会	2後		2							兼1
	図画工作Ⅰ	1前		1		1				1	
	図画工作Ⅱ	1後		1		1				1	
	音楽Ⅰ	1前		1			1	1			
	音楽Ⅱ	1後		1			1	1			
	器楽	2通		2			1	1			
	体育	2前		1							兼1
	生活Ⅰ	1前		1		1				1	
	生活Ⅱ	1後		1		1				1	
	家庭	2後		1		1				1	兼2
	初等英語	2後		1			1				
	子どもと環境	1後		1		1				1	
	子どもの言葉	**2前**		1		1					
	子どもの表現Ⅰ	1後		1		1		1		1	
	子どもの表現Ⅱ	2前		1		1		1		1	
	音楽表現研究	3前		1				1			
	造形表現研究	3前		1		1				1	
	幼児体育Ⅰ	3前		1							兼1
		3後									
	幼児体育Ⅱ	3後		1							兼1
	鍵盤演奏入門	1前		1			1				
	鍵盤楽器の表現技法	3通		2			1				
	発達心理学	1前	2			1					
	教育心理学	1後	1			1					
	子ども家庭支援の心理学	**3前**		**2**							**兼1**
	幼児理解の理論と方法	2前	2			1					
	子どもの保健	**2後**		**2**							**兼1**
	子どもの健康と安全	**3前**		**1**							**兼1**
	子どもの食と栄養Ⅰ	3前		1						1	兼1
	子どもの食と栄養Ⅱ	3後		1						1	兼1
	特別支援教育・保育Ⅰ	3前	1			1					
	特別支援教育・保育Ⅱ	3後	1			1					
	社会的養護演習	3前		1							兼1
	子育て支援演習	**3前**		**1**			**1**				
	教育相談支援	3前	2			1					
	地域と子育て支援	3後		2			1				
	生徒指導・進路指導の理論と方法	3前		2							**兼2**
	保育内容の指導法Ⅰ	2後	2							1	兼1
	保育内容の指導法Ⅱ	3前	2							1	兼1
	初等教科教育法(国語)	2後	2			1					兼1
	初等教科教育法(算数)	3前		2				1			
	初等教科教育法(社会)	3前		2							兼1
	初等教科教育法(理科)	3前		2		1				1	
	初等教科教育法(英語)	3前		2			1				
	初等教科教育法(生活)	2後	2			1				1	
	初等教科教育法(音楽)	2後	1				1				
	初等教科教育法(図画工作)	2後	1			1				1	
	初等教科教育法(家庭)	3前		1						1	兼1
	初等教科教育法(体育)	2後	1								兼1
	道徳教育指導論	3前		2							兼1
	特別活動指導論	2後		1							兼1

【令和２年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
専門教育科目	国語(書写を含む)	2前		2		1					兼1
	算数	2後		2				1			
	理科	2前		2		1				1	
	社会	2後		2							兼1
	図画工作Ⅰ	1前		1		1				1	
	図画工作Ⅱ	1後		1		1				1	
	音楽Ⅰ	1前		1			1	1			
	音楽Ⅱ	1後		1			1	1			
	器楽	2通		2			1	1			
	体育	2前		1							兼1
	生活Ⅰ	1前		1		1				1	
	生活Ⅱ	1後		1		1				1	
	家庭	2後		1		1				1	兼2
	初等英語	2後		1			1				
	子どもと環境	1後		1		1				1	
	子どもの言葉	**2前**		1		1					
	子どもの表現Ⅰ	1後		1		1		1		1	
	子どもの表現Ⅱ	2前		1		1		1		1	
	音楽表現研究	3前		1				1			
	造形表現研究	3前		1		1				1	
	幼児体育Ⅰ	3前		1							兼1
		3後									
	幼児体育Ⅱ	3後		1							兼1
	鍵盤演奏入門	1前		1			1				
	鍵盤楽器の表現技法	3通		2			1				
	発達心理学	1前	2			1					
	教育心理学	1後	1			1					
	子ども家庭支援の心理学	**3前**		**2**							**兼1**
	幼児理解の理論と方法	2前	2			1					
	子どもの保健	**2後**		**2**							**兼1**
	子どもの健康と安全	**3前**		**1**							**兼1**
	子どもの食と栄養Ⅰ	3前		1						1	兼1
	子どもの食と栄養Ⅱ	3後		1						1	兼1
	特別支援教育・保育Ⅰ	3前	1			1					
	特別支援教育・保育Ⅱ	3後	1			1					
	社会的養護演習	3前		1							兼1
	子育て支援演習	**3前**		**1**			**1**				
	教育相談支援	3前	2			1					
	地域と子育て支援	3後		2			1				
	生徒指導・進路指導の理論と方法	3前		2							**兼2**
	保育内容の指導法Ⅰ	2後	2							1	兼1
	保育内容の指導法Ⅱ	3前	2							1	兼1
	初等教科教育法(国語)	2後	2			1					兼1
	初等教科教育法(算数)	3前		2				1			
	初等教科教育法(社会)	3前		2							兼1
	初等教科教育法(理科)	3前		2		1				1	
	初等教科教育法(英語)	3前		2			1				
	初等教科教育法(生活)	2後	2			1				1	
	初等教科教育法(音楽)	2後	1				1				
	初等教科教育法(図画工作)	2後	1			1				1	
	初等教科教育法(家庭)	3前		1						1	兼1
	初等教科教育法(体育)	2後	1								兼1
	道徳教育指導論	3前		2							兼1
	特別活動指導論	2後		1							兼1

【令和３年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	総合的な学習の時間指導論	3前		2				1			
	乳児保育Ⅰ	3前		2							兼1
	乳児保育Ⅱ	3後		1							兼1
	幼稚園実習Ⅰ	2通		2				1		1	
	幼稚園実習Ⅱ	3通		2				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅰ	2通		1				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅱ	3通		1				1		1	
	小学校実習	3通		4			1	1		1	
	小学校実習指導	3通		1			1	1		1	
	保育実習Ⅰ（保育所）	3通		2				1		1	
	保育実習Ⅰ（施設）	2後 3前		2			1			1	
	保育実習Ⅱ	3後		2				1		1	
	保育実習Ⅲ	4前		2			1			1	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	3通		1				1		1	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	2後 3前		1			1			1	
	保育実習指導Ⅱ	3後		1				1		1	
	保育実習指導Ⅲ	4前		1			1			1	
	保育内容実践研究	3通		2		1	1	2		2	
	教科実践研究	3通		2		2	1	1		2	
	教職実践演習（幼・小）	4後		2		2		1		2	
	保育・教職実践演習（幼）	4後		2			1	2		2	
	専門ゼミナールⅠ	3通	2			6	2	2			
	専門ゼミナールⅡ	4通	2			6	2	2			
	卒業研究	4通	4			6	2	2			
	小計（88科目）	－	49	91	0	7	3	3	0	4	
合計（130科目）		－	78	131	0	10	3	3	1	4	

卒業要件及び履修方法

・必修科目78単位、選択必修科目25単位、共通基礎科目と専門教育科目の選択科目から21単位以上を履修し、124単位以上修得すること。
・選択必修科目の履修方法は以下の通りとする。
共通基礎科目：教育者の教養4単位、リテラシー1単位、紀の国わかやまと世界4単位　専門教育科目：教科・保育内容の専門領域14単位、実践研究2単位
・履修科目の登録の上限は49単位（年間）とする。

【令和２年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	総合的な学習の時間指導論	3前		2				1			
	乳児保育Ⅰ	3前		2							兼1
	乳児保育Ⅱ	3後		1							兼1
	幼稚園実習Ⅰ	2通		2				1		1	
	幼稚園実習Ⅱ	3通		2				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅰ	2通		1				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅱ	3通		1				1		1	
	小学校実習	3通		4			1	1		1	
	小学校実習指導	3通		1			1	1		1	
	保育実習Ⅰ（保育所）	3通		2				1		1	
	保育実習Ⅰ（施設）	2後 3前		2			1			1	
	保育実習Ⅱ	3後		2				1		1	
	保育実習Ⅲ	4前		2			1			1	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	3通		1				1		1	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	2後 3前		1			1			1	
	保育実習指導Ⅱ	3後		1				1		1	
	保育実習指導Ⅲ	4前		1			1			1	
	保育内容実践研究	3通		2		1	1	2		2	
	教科実践研究	3通		2		2	1	1		2	
	教職実践演習（幼・小）	4後		2		2		1		2	
	保育・教職実践演習（幼）	4後		2			1	2		2	
	専門ゼミナールⅠ	3通	2			6	2	2			
	専門ゼミナールⅡ	4通	2			6	2	2			
	卒業研究	4通	4			6	2	2			
	小計（88科目）	－	49	91	0	7	3	3	0	4	
合計（130科目）		－	78	131	0	10	3	3	1	4	

卒業要件及び履修方法

・必修科目78単位、選択必修科目25単位、共通基礎科目と専門教育科目の選択科目から21単位以上を履修し、124単位以上修得すること。
・選択必修科目の履修方法は以下の通りとする。
共通基礎科目：教育者の教養4単位、リテラシー1単位、紀の国わかやまと世界4単位　専門教育科目：教科・保育内容の専門領域14単位、実践研究2単位
・履修科目の登録の上限は49単位（年間）とする。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	信愛教育Ⅰ	1通	1			1					
	信愛教育Ⅱ	2通	1			1					
	いのちと倫理	1後	2			1					
	ボランティア実習	1通	1			1			1	1	
	日本国憲法	1前	2								兼1
	ヘルスプロモーション科学	1前		2							兼1
	情報処理論	1前		2		1					
	国際教育論	1後		2							兼1
	人類生態学概論	2前		2							兼1
	子どもと遊び	1後		2							兼1
	子どもと文学	2前		2							兼1
	こころの科学	2後		2		1					
	生命と進化	2後		2							兼1
	現代メディア論	2前		2							兼1
	日本語表現	1前	1			1					
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				1				
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				1				
	フランス語コミュニケーション	2前		1							兼1
	中国語コミュニケーション	2前		1							兼1
	情報処理演習Ⅰ	1後	1			1					
	情報処理演習Ⅱ	2前	1			1					
	スポーツと健康Ⅰ（講義）	1前	1			1					
	スポーツと健康Ⅱ（実技）	1通	1			1					
	教職キャリアデザイン	1通	1			1	1				
	教職基礎ゼミナール	1通	2			4	1	1	1		
	教職基礎実習	1通	1				1	1		1	
	インターンシップ（事前・事後指導を含む）	3通		2		2					
	キャリアガイダンスⅠ	3通	1			1	1				
	キャリアガイダンスⅡ	4通		1		1	1				
	教師への道Ⅰ	3前		2		1				1	
	教師への道Ⅱ	3後		2		1				1	
	教師への道Ⅲ	4前		2		1				1	
	世界の中の和歌山	1前	2								兼1
	歴史・文化と風土	1後		2							兼1
	郷土の自然	1後		2							兼1
	まちづくりの経済学	2前		2							兼1
	地域の生活文化	2前		2		1					
	文学と郷土	2後		2							兼1
	地域力再生論	2前	2			1			1		
	地域連携フィールド学習	1通		1		1			1		
	地域連携フィールドゼミナール	2通	4			2	1	1	1		
	地域防災教育論	3後	2								兼1
	小計（42科目）	－	29	40	0	8	2	2	1	2	
専門教育科目	教職論	1前	2			1					
	教育原理	1前	2								兼2
	保育原理	1前	2				1				
	教育制度論	1後	2			1					
	児童家庭福祉	1後	2								兼1
	社会福祉	2前	2								兼1
	社会的養護	2後	2			1					
	教育方法論	1後	2								兼1
	教育課程総論	1前	2								兼1
	保育課程論	1後	2								兼1
	保育内容総論	1前	1								兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国語(書写を含む)	2前		2		1					兼1
	算数	2後		2				1			
	理科	2前		2		1				1	
	社会	2後		2							兼1
	図画工作Ⅰ	1前		1		1				1	
	図画工作Ⅱ	1後		1		1				1	
	音楽Ⅰ	1前		1			1	1			
	音楽Ⅱ	1後		1			1	1			
	器楽	2通		2			1	1			
	体育	2前		1							兼1
	生活Ⅰ	1前		1		1				1	
	生活Ⅱ	1後		1		1				1	
	家庭	2後		1		1				1	兼2
	初等英語	2後		1			1				
	子どもと環境	1後		1		1				1	
	子どもの言葉	1後		1		1					
	子どもの表現Ⅰ	1後		1		1		1		1	
	子どもの表現Ⅱ	2前		1		1		1		1	
	音楽表現研究	3前		1				1			
	造形表現研究	3前		1		1				1	
	幼児体育Ⅰ	3前		1							兼1
		3後									
	幼児体育Ⅱ	3後		1							兼1
	保育の表現技術(言葉)	3前		1							兼1
	鍵盤演奏入門	1前		1			1				
	鍵盤楽器の表現技法	3通		2			1				
専門教育科目	発達心理学	1前	2			1					
	教育心理学	1後	1			1					
	幼児理解の理論と方法	2前	2			1					
	子どもの保健ⅠA	2前		2							兼1
	子どもの保健ⅠB	2後		2							兼1
	子どもの保健Ⅱ	3前		1							兼1
	子どもの食と栄養Ⅰ	3前		1						1	兼1
	子どもの食と栄養Ⅱ	3後		1						1	兼1
	特別支援教育・保育Ⅰ	3前	1			1					
	特別支援教育・保育Ⅱ	3後	1			1					
	社会的養護内容	3前		1							兼1
	相談援助	3前		1			1				
	教育相談支援	3前	2			1					
	地域と子育て支援	3後		2			1				
	保育相談支援	3後		1			1				
	生徒指導・進路指導の理論と方法	3前		2							兼2
	保育内容の指導法Ⅰ	2後	2							1	兼1
	保育内容の指導法Ⅱ	3前	2							1	兼1
	初等教科教育法(国語)	2後	2			1					兼1
	初等教科教育法(算数)	3前		2				1			
	初等教科教育法(社会)	3前		2							兼1
	初等教科教育法(理科)	3前		2		1				1	
	初等教科教育法(英語)	3前		2			1				
	初等教科教育法(生活)	2後	2			1				1	
	初等教科教育法(音楽)	2後	1				1				
	初等教科教育法(図画工作)	2後	1			1				1	
	初等教科教育法(家庭)	3前		1						1	兼1
	初等教科教育法(体育)	2後	1								兼1
	道徳教育指導論	3前		2							兼1
	特別活動指導論	2後		1							兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	総合的な学習の時間指導論	3前		2				1			
	乳児保育Ⅰ	3前		1							兼1
	乳児保育Ⅱ	3後		1							兼1
	幼稚園実習Ⅰ	2通		2				1		1	
	幼稚園実習Ⅱ	3通		2				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅰ	2通		1				1		1	
	幼稚園実習指導Ⅱ	3通		1				1		1	
	小学校実習	3通		4			1			1	
	小学校実習指導	3通		1			1			1	
	保育実習Ⅰ（保育所）	3通		2				1		1	
	保育実習Ⅰ（施設）	2後 3前		2			1			1	
	保育実習Ⅱ	3後		2				1		1	
	保育実習Ⅲ	4前		2			1			1	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	3通		1				1		1	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	2後 3前		1			1			1	
	保育実習指導Ⅱ	3後		1				1		1	
	保育実習指導Ⅲ	4前		1			1			1	
	保育内容実践研究	3通		2		1	1	2		2	
	教科実践研究	3通		2		2	1	1		2	
	教職実践演習（幼・小）	4後		2		2		1		2	
	保育・教職実践演習（幼）	4後		2			1	2		2	
	専門ゼミナールⅠ	3通	2			6	2	2			
	専門ゼミナールⅡ	4通	2			6	2	2			
	卒業研究	4通	4			6	2	2			
	小計（90科目）	－	49	92	0	7	3	3	0	4	
合計（132科目）		－	78	132	0	10	3	3	1	4	

卒業要件及び履修方法

・必修科目78単位、選択必修科目25単位、共通基礎科目と専門教育科目の選択科目から21単位以上を履修し、124単位以上修得すること。
・選択必修科目の履修方法は以下の通りとする。
共通基礎科目：教育者の教養4単位、リテラシー1単位、紀の国わかやまと世界4単位　専門教育科目：教科・保育内容の専門領域14単位、実践研究2単位
・履修科目の登録の上限は49単位（年間）とする。

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・　「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
・　１ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
・　不要な年度（令和元年度開設であれば平成３０年度）の表は適宜削除してください。
（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）
・　専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

・教職課程審査の結果、「教育原理」の専任教員等の配置を「教授１」から「兼２」に変更。
・教職課程審査の結果、「生徒指導・進路指導の理論と方法」の専任教員等の配置を「教授１」から「兼２」に変更。

【令和２年度】

・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、以下のように変更。
授業科目の名称を「児童家庭福祉」から「子ども家庭福祉」に変更。
授業科目の名称を「保育課程論」から「保育の計画と評価」に変更。
「子どもの言葉」の配当年次を「１後」から「２前」に変更。
「保育の表現技術(言葉)」を廃止。
「子ども家庭支援の心理学」を配当年次「３前」に科目追加。
「子どもの保健ＩＡ」「子どもの保健ＩＢ」を「子どもの保健」に統合し、「２後」に配当。
授業科目の名称を「子どもの保健Ⅱ」から「子どもの健康と安全」に変更。
授業科目の名称を「社会的養護内容」から「社会的養護演習」に変更。
「子育て支援演習」配当年次「３前」に科目追加。
「相談援助」を「子育て支援演習」に統合し、廃止。
「保育相談支援」を廃止。
「乳児保育Ⅰ」を演習から講義に授業形態を変更し、単位数を「1」から「2」に変更。
・授業内容の充実のため、「小学校実習」の担当教員を「准教授1」から「准教授1、講師1」に追加変更。
・授業内容の充実のため、「小学校実習指導」の担当教員を「准教授1」から「准教授1、講師1」に追加変更。

【令和３年度】

特になし。

【令和４年度】

・桐山由香専任講師の退職により、桐山由香講師担当科目（音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、器楽、子どもの表現Ⅰ、子どもの表現Ⅱ、音楽表現研究、保育内容実践研究、保育・教職実践演習（幼）、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、卒業研究）の講師数1名減少、八代健志専任准教授就任によりすべて同じ科目を担当し、准教授数1名増加。
・「教育職員免許法施行規則」の一部改正に基づく学則変更により、以下のように変更。
授業科目の名称を「教育方法論」から「教育方法論(ICT活用含む)」に変更。
・実習科目との時期の重複を解消するため、「インターンシップ(事前・事後指導を含む)」の配当年次を「3通」から「2通」に変更。
・授業科目の充実のため、「実践キャリア教育」配当年次「4前」に新規科目追加。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
47 科目	85 科目	0 科目	132 科目	47 科目 [0]	84 科目 [△1]	0 科目 [0]	131 科目 [△1]	

（注）・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［ ］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（3） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

（注）・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

（4） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	保育の表現技術(言葉)	1	３前	専門	選択	「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更による。（２）
2	子どもの保健ＩＢ	2	２後	専門	選択	「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、「子どもの保健」に統合。（２）
3	相談援助	1	３前	専門	選択	「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、「子育て支援演習」に統合。（２）
4	保育相談支援	1	３後	専門	選択	「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更による。（２）

（注）・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

（5） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により保育士資格を取得するための構成科目が変更となったことへの処置であり、資格取得の為の要件は満たしている。また、変更後の学則が適用される学生には、反映後の履修のてびきを配布し周知している。（２）

（注）・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

（６）「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{5}{132} = \boxed{3.78}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・　「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区　　分		内　　容				備考
（1）校地等	区　　分	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積 10,201.38㎡ 借用期間： 平成30年2月1日～ 平成59年3月31日
	校舎敷地	5,959.58㎡	0㎡	0㎡	5,959.58㎡	
	運動場用地	2,480.62㎡	0㎡	0㎡	2,480.62㎡	
	小　　計	8,440.20㎡	0㎡	0㎡	8,440.20㎡	
	そ の 他	1,761.18㎡	0㎡	0㎡	1,761.18㎡	
	合　　計	10,201.38㎡	0㎡	0㎡	10,201.38㎡	
（2）校　　舎		専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
		4,358.60㎡ (3,390.98㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	4,358.60㎡ (3,390.98㎡)	

（3）教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	7室	6室	4室	1室 （補助職員　0人）	0室 （補助職員　0人）	

（4）専任教員研究室	新設学部等の名称	室　　数
	教育学部　子ども教育学科	18　　室

（5）図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	短大図書を共用 64,370冊（４） ~~64,018冊~~（３） ~~64,175冊~~（２） ~~62,333冊~~（元） 図書51冊増加、海外電子ジャーナル62種増加、海外雑誌5誌追加、視聴覚資料１点増加（元） 図書購入及び寄贈により1494冊増加、海外電子ジャーナル99種増加（２） 視聴覚資料の完成年度予定数値を設置計画時の予定数に変更（４）
	教育学部	6,034〔674〕 (6,370〔722〕)	812〔780〕 ~~704〔671〕~~ (822〔789〕)	775〔775〕 ~~666〔666〕~~ (784〔784〕)	270 ~~95~~ ~~270~~ (278)	199 (199)	(　　)	
	計	6,034〔674〕 (6,370〔722〕)	812〔780〕 (822〔789〕)	775〔775〕 (784〔784〕)	270 ~~95~~ ~~270~~ (278)	199 (199)	(　　)	

（6）図書館	面　　積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	152.55㎡	40席	10980冊	

（7）体育館	面　　積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	929.95㎡	該　当　な　し	

（8）経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区　　分	開設年度	完成年度	区　　分	開設前年度	開設年度	完成年度	兼任講師を含む教員からの購入希望図書が多かったため（２）
		教員１人当り研究費等	145千円	145千円	図書購入費	22,153千円	5,273千円	5,000千円	
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	― 千円	― 千円	― 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、雑収入

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和４年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（４）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４．既設大学等の状況

大学の名称	和歌山信愛大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	80	－	320	－	0.93	0.85	－	平成31	－	
子ども教育学科	4	80	－	320	学士 （教育学）	0.93	0.85	－	平成31	和歌山県和歌山市住吉町1番地	
大学全体	－	80	－	320	－	－	－	－	－	－	

大学の名称	和歌山信愛女子短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
保育科	2	80	－	180	短期大学士 （幼児教育）	0.81	0.90	－	昭和31	和歌山県和歌山市相坂702番地2	令和4年度入学生より定員100→80に変更
生活文化学科	2	90	－	180	－	0.83	0.81	－		－	
生活文化専攻	2	40	－	80	短期大学士 （生活文化学）	0.94	0.82	－	昭和28	和歌山県和歌山市相坂702番地2	
食物栄養専攻	2	50	－	100	短期大学士 （栄養）	0.74	0.80	－	昭和44	和歌山県和歌山市相坂702番地2	
大学全体	－	170	－	360	－	－	－	－	－	－	

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び
高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の５月１日現在の状況を記入してください（専攻科及び別科を除く）。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている
場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度ＡＣ対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和４年度）から起算した修業年限に相当する期間の
入学定員超過率の平均を記載してください。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を
記入してください。

5　教員組織の状況

＜教育学部　子ども教育学科＞

（1）ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大山　輝光 （51） ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	情報処理論 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 教職基礎ゼミナール
専	教授	千森　督子 （67） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） 地域の生活文化 地域力再生論 地域連携フィールド学習 地域連携フィールドゼミナール 家庭※
専	教授	森崎　陽子 （65） ＜平成31年4月＞ 体育学士	ボランティア実習 スポーツと健康Ⅰ（講義） スポーツと健康Ⅱ（実技） 教職キャリアデザイン 教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 地域連携フィールドゼミナール
専	教授	村上　凡子 （61） ＜平成31年4月＞ 博士（臨床教育学）	教職基礎ゼミナール 教育心理学 幼児理解の理論と方法 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 教育相談支援 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	秋吉　博之 （65） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	理科 生活Ⅰ 生活Ⅱ 子どもと環境 初等教科教育法（理科） 初等教科教育法（生活） 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	小林　康宏 （52） ＜平成31年4月＞ 教育学修士	日本語表現 国語（書写を含む）※ 子どもの言葉 初等教科教育法（国語）※ 教科実践研究 教職実践演習（幼・小） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大山　輝光 （51） ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	情報処理論 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 教職基礎ゼミナール
専	教授	千森　督子 （67） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） 地域の生活文化 地域力再生論 地域連携フィールド学習 地域連携フィールドゼミナール 家庭※
専	教授	森崎　陽子 （65） ＜平成31年4月＞ 体育学士	ボランティア実習 スポーツと健康Ⅰ（講義） スポーツと健康Ⅱ（実技） 教職キャリアデザイン 教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 地域連携フィールドゼミナール
専	教授	村上　凡子 （61） ＜平成31年4月＞ 博士（臨床教育学）	教職基礎ゼミナール 教育心理学 幼児理解の理論と方法 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 教育相談支援 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	秋吉　博之 （65） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	理科 生活Ⅰ 生活Ⅱ 子どもと環境 初等教科教育法（理科） 初等教科教育法（生活） 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	小林　康宏 （52） ＜平成31年4月＞ 教育学修士	日本語表現 国語（書写を含む）※ 子どもの言葉 初等教科教育法（国語）※ 教科実践研究 教職実践演習（幼・小） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究

【令和２年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大山　輝光 （52） ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	情報処理論 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 教職基礎ゼミナール
専	教授	千森　督子 （68） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） 地域の生活文化 地域力再生論 地域連携フィールド学習 地域連携フィールドゼミナール 家庭※
専	教授	森崎　陽子 （66） ＜平成31年4月＞ 体育学士	ボランティア実習 スポーツと健康Ⅰ（講義） スポーツと健康Ⅱ（実技） 教職キャリアデザイン 教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 地域連携フィールドゼミナール
専	教授	村上　凡子 （62） ＜平成31年4月＞ 博士（臨床教育学）	教職基礎ゼミナール 教育心理学 幼児理解の理論と方法 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 教育相談支援 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	秋吉　博之 （66） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	理科 生活Ⅰ 生活Ⅱ 子どもと環境 初等教科教育法（理科） 初等教科教育法（生活） 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	小林　康宏 （53） ＜平成31年4月＞ 教育学修士	日本語表現 国語（書写を含む）※ 子どもの言葉 初等教科教育法（国語）※ 教科実践研究 教職実践演習（幼・小） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究

【令和３年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大山　輝光 （53） ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	情報処理論 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 教職基礎ゼミナール
専	教授	千森　督子 （69） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） 地域の生活文化 地域力再生論 地域連携フィールド学習 地域連携フィールドゼミナール 家庭※
専	教授	森崎　陽子 （67） ＜平成31年4月＞ 体育学士	ボランティア実習 スポーツと健康Ⅰ（講義） スポーツと健康Ⅱ（実技） 教職キャリアデザイン 教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 地域連携フィールドゼミナール
専	教授	村上　凡子 （63） ＜平成31年4月＞ 博士（臨床教育学）	教職基礎ゼミナール 教育心理学 幼児理解の理論と方法 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 教育相談支援 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	秋吉　博之 （67） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	理科 生活Ⅰ 生活Ⅱ 子どもと環境 初等教科教育法（理科） 初等教科教育法（生活） 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	小林　康宏 （54） ＜平成31年4月＞ 教育学修士	日本語表現 国語（書写を含む）※ 子どもの言葉 初等教科教育法（国語）※ 教科実践研究 教職実践演習（幼・小） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究

【令和４年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	大山　輝光 （54） ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	情報処理論 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 教職基礎ゼミナール
専	教授	千森　督子 （70） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） 地域の生活文化 地域力再生論 地域連携フィールド学習 地域連携フィールドゼミナール 家庭※
専	教授	森崎　陽子 （68） ＜平成31年4月＞ 体育学士	ボランティア実習 スポーツと健康Ⅰ（講義） スポーツと健康Ⅱ（実技） 教職キャリアデザイン 教職基礎ゼミナール インターンシップ （事前・事後指導を含む） キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 地域連携フィールドゼミナール
専	教授	村上　凡子 （64） ＜平成31年4月＞ 博士（臨床教育学）	教職基礎ゼミナール 教育心理学 幼児理解の理論と方法 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 教育相談支援 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	秋吉　博之 （68） ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	理科 生活Ⅰ 生活Ⅱ 子どもと環境 初等教科教育法（理科） 初等教科教育法（生活） 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
専	教授	小林　康宏 （55） ＜平成31年4月＞ 教育学修士	日本語表現 国語（書写を含む）※ 子どもの言葉 初等教科教育法（国語）※ 教科実践研究 教職実践演習（幼・小） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究

		戸淵 幸夫 (67) ＜平成31年4月＞ 芸術学士
		図画工作Ⅰ
		図画工作Ⅱ
専	教授	子どもの表現Ⅰ※
		子どもの表現Ⅱ※
		初等教科教育法（図画工作）
		造形表現研究
		保育内容実践研究
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		木本　毅 (74) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		教師への道Ⅰ
		教師への道Ⅱ
		教師への道Ⅲ
専	教授	教職論
		教育原理
		教育制度論
		生徒指導・進路指導の理論と方法
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		桑原　義登 (72) ＜平成31年4月＞ 農学士
		こころの科学
		社会的養護
専	教授	発達心理学
		教職実践演習（幼・小）
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		星野　正道 (69) ＜平成31年4月＞ 藝術学士
		信愛教育Ⅰ
専	教授	信愛教育Ⅱ
		いのちと倫理
		森下　順子 (53) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		教職基礎ゼミナール
		地域連携フィールドゼミナール
		保育原理
		相談援助
専	准教授	地域と子育て支援
		保育相談支援
		保育実習Ⅰ（施設）
		保育実習Ⅲ
		保育実習指導Ⅰ（施設）
		保育実習指導Ⅲ
		保育内容実践研究
		保育・教職実践演習（幼）

		戸淵 幸夫 (67) ＜平成31年4月＞ 芸術学士
		図画工作Ⅰ
		図画工作Ⅱ
専	教授	子どもの表現Ⅰ※
		子どもの表現Ⅱ※
		初等教科教育法（図画工作）
		造形表現研究
		保育内容実践研究
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		木本　毅 (74) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		教師への道Ⅰ
		教師への道Ⅱ
		教師への道Ⅲ
専	教授	教職論
		教育制度論
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		桑原　義登 (72) ＜平成31年4月＞ 農学士
		こころの科学
		社会的養護
専	教授	発達心理学
		教職実践演習（幼・小）
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		星野　正道 (69) ＜平成31年4月＞ 藝術学士
		信愛教育Ⅰ
専	教授	信愛教育Ⅱ
		いのちと倫理
		森下　順子 (54) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		教職基礎ゼミナール
		地域連携フィールドゼミナール
		保育原理
		相談援助
専	准教授	地域と子育て支援
		保育相談支援
		保育実習Ⅰ（施設）
		保育実習Ⅲ
		保育実習指導Ⅰ（施設）
		保育実習指導Ⅲ
		保育内容実践研究
		保育・教職実践演習（幼）

		戸淵 幸夫 (68) ＜平成31年4月＞ 芸術学士
		図画工作Ⅰ
		図画工作Ⅱ
専	教授	子どもの表現Ⅰ※
		子どもの表現Ⅱ※
		初等教科教育法（図画工作）
		造形表現研究
		保育内容実践研究
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		木本　毅 (75) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		教師への道Ⅰ
		教師への道Ⅱ
		教師への道Ⅲ
専	教授	教職論
		教育制度論
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		桑原　義登 (73) ＜平成31年4月＞ 農学士
		こころの科学
		社会的養護
専	教授	発達心理学
		教職実践演習（幼・小）
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		星野　正道 (70) ＜平成31年4月＞ 藝術学士
		信愛教育Ⅰ
専	教授	信愛教育Ⅱ
		いのちと倫理
		森下　順子 (55) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		教職基礎ゼミナール
		地域連携フィールドゼミナール
		保育原理
専	准教授	地域と子育て支援
		保育実習Ⅰ（施設）
		保育実習Ⅲ
		保育実習指導Ⅰ（施設）
		保育実習指導Ⅲ
		保育内容実践研究
		保育・教職実践演習（幼）
		子育て支援演習

		戸淵 幸夫 (69) ＜平成31年4月＞ 芸術学士
		図画工作Ⅰ
		図画工作Ⅱ
専	教授	子どもの表現Ⅰ※
		子どもの表現Ⅱ※
		初等教科教育法（図画工作）
		造形表現研究
		保育内容実践研究
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		木本　毅 (76) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		教師への道Ⅰ
		教師への道Ⅱ
		教師への道Ⅲ
専	教授	教職論
		教育制度論
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		桑原　義登 (74) ＜平成31年4月＞ 農学士
		こころの科学
		社会的養護
専	教授	発達心理学
		教職実践演習（幼・小）
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		星野　正道 (71) ＜平成31年4月＞ 藝術学士
		信愛教育Ⅰ
専	教授	信愛教育Ⅱ
		いのちと倫理
		森下　順子 (56) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		教職基礎ゼミナール
		地域連携フィールドゼミナール
		保育原理
専	准教授	地域と子育て支援
		保育実習Ⅰ（施設）
		保育実習Ⅲ
		保育実習指導Ⅰ（施設）
		保育実習指導Ⅲ
		保育内容実践研究
		保育・教職実践演習（幼）
		子育て支援演習

		戸淵 幸夫 (70) ＜平成31年4月＞ 芸術学士
		図画工作Ⅰ
		図画工作Ⅱ
専	教授	子どもの表現Ⅰ※
		子どもの表現Ⅱ※
		初等教科教育法（図画工作）
		造形表現研究
		保育内容実践研究
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		木本　毅 (77) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		教師への道Ⅰ
		教師への道Ⅱ
		教師への道Ⅲ
専	教授	教職論
		教育制度論
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		桑原　義登 (75) ＜平成31年4月＞ 農学士
		こころの科学
		社会的養護
専	教授	発達心理学
		教職実践演習（幼・小）
		専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ
		卒業研究
		星野　正道 (72) ＜平成31年4月＞ 藝術学士
		信愛教育Ⅰ
専	教授	信愛教育Ⅱ
		いのちと倫理
		森下　順子 (57) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		教職基礎ゼミナール
		地域連携フィールドゼミナール
		保育原理
専	准教授	地域と子育て支援
		保育実習Ⅰ（施設）
		保育実習Ⅲ
		保育実習指導Ⅰ（施設）
		保育実習指導Ⅲ
		保育内容実践研究
		保育・教職実践演習（幼）
		子育て支援演習

		溝口　希久生 (59) ＜平成31年4月＞ 博士（学校教育学）
専	准教授	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 鍵盤演奏入門 鍵盤楽器の表現技法 初等教科教育法（音楽） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		辻　伸幸 (55) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	准教授	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 教職キャリアデザイン 教職基礎実習 キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 初等英語 初等教科教育法（英語） 小学校実習 小学校実習指導 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		桐山　由香 (58) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
専	講師	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 子どもの表現Ⅰ※ 子どもの表現Ⅱ※ 音楽表現研究 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		小田　真弓 (52) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	講師	教職基礎実習 地域連携フィールドゼミナール 幼稚園実習Ⅰ 幼稚園実習Ⅱ 幼稚園実習指導Ⅰ 幼稚園実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼）

		溝口　希久生 (59) ＜平成31年4月＞ 博士（学校教育学）
専	准教授	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 鍵盤演奏入門 鍵盤楽器の表現技法 初等教科教育法（音楽） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		辻　伸幸 (55) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	准教授	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 教職キャリアデザイン 教職基礎実習 キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 初等英語 初等教科教育法（英語） 小学校実習 小学校実習指導 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		桐山　由香 (58) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
専	講師	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 子どもの表現Ⅰ※ 子どもの表現Ⅱ※ 音楽表現研究 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		小田　真弓 (52) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	講師	教職基礎実習 地域連携フィールドゼミナール 幼稚園実習Ⅰ 幼稚園実習Ⅱ 幼稚園実習指導Ⅰ 幼稚園実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼）

		溝口　希久生 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（学校教育学）
専	准教授	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 鍵盤演奏入門 鍵盤楽器の表現技法 初等教科教育法（音楽） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		辻　伸幸 (56) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	准教授	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 教職キャリアデザイン 教職基礎実習 キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 初等英語 初等教科教育法（英語） 小学校実習 小学校実習指導 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		桐山　由香 (59) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
専	講師	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 子どもの表現Ⅰ※ 子どもの表現Ⅱ※ 音楽表現研究 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		小田　真弓 (53) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	講師	教職基礎実習 地域連携フィールドゼミナール 幼稚園実習Ⅰ 幼稚園実習Ⅱ 幼稚園実習指導Ⅰ 幼稚園実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼）

		溝口　希久生 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（学校教育学）
専	准教授	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 鍵盤演奏入門 鍵盤楽器の表現技法 初等教科教育法（音楽） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		辻　伸幸 (57) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	准教授	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 教職キャリアデザイン 教職基礎実習 キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 初等英語 初等教科教育法（英語） 小学校実習 小学校実習指導 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		桐山　由香 (60) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
専	講師	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 子どもの表現Ⅰ※ 子どもの表現Ⅱ※ 音楽表現研究 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		小田　真弓 (54) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	講師	教職基礎実習 地域連携フィールドゼミナール 幼稚園実習Ⅰ 幼稚園実習Ⅱ 幼稚園実習指導Ⅰ 幼稚園実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼）

		溝口　希久生 (62) ＜平成31年4月＞ 博士（学校教育学）
専	准教授	音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 鍵盤演奏入門 鍵盤楽器の表現技法 初等教科教育法（音楽） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		辻　伸幸 (58) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	准教授	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 教職キャリアデザイン 教職基礎実習 キャリアガイダンスⅠ キャリアガイダンスⅡ 初等英語 初等教科教育法（英語） 小学校実習 小学校実習指導 教科実践研究 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究
		八代　健志 (66) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）
専	**准教授**	**音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 器楽※ 子どもの表現Ⅰ※ 子どもの表現Ⅱ※ 音楽表現研究 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼） 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 卒業研究**
		小田　真弓 (55) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
専	講師	教職基礎実習 地域連携フィールドゼミナール 幼稚園実習Ⅰ 幼稚園実習Ⅱ 幼稚園実習指導Ⅰ 幼稚園実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ 保育内容実践研究 保育・教職実践演習（幼）

専	講師	山本　紀代 (65) ＜平成31年4月＞ 修士（学校教育学）	専	講師	山本　紀代 (65) ＜平成31年4月＞ 修士（学校教育学）	専	講師	山本　紀代 (66) ＜平成31年4月＞ 修士（学校教育学）	専	講師	山本　紀代 (67) ＜平成31年4月＞ 修士（学校教育学）	専	講師	山本　紀代 (68) ＜平成31年4月＞ 修士（学校教育学）
		教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール
		算数			算数			算数			算数			算数
		初等教科教育法（算数）			初等教科教育法（算数）			初等教科教育法（算数）			初等教科教育法（算数）			初等教科教育法（算数）
		総合的な学習の時間指導論			総合的な学習の時間指導論			総合的な学習の時間指導論			総合的な学習の時間指導論			総合的な学習の時間指導論
		教科実践研究			教科実践研究			教科実践研究			教科実践研究			教科実践研究
		教職実践演習（幼・小）			教職実践演習（幼・小）			教職実践演習（幼・小）			教職実践演習（幼・小）			教職実践演習（幼・小）
		専門ゼミナールⅠ			専門ゼミナールⅠ			専門ゼミナールⅠ			専門ゼミナールⅠ			専門ゼミナールⅠ
		専門ゼミナールⅡ			専門ゼミナールⅡ			専門ゼミナールⅡ			専門ゼミナールⅡ			専門ゼミナールⅡ
		卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究			卒業研究
								小学校実習			**小学校実習**			**小学校実習**
								小学校実習指導			**小学校実習指導**			**小学校実習指導**
専	助教	江口　怜 (31) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	専	助教	江口　怜 (32) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	専	助教	江口　怜 (33) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	専	助教	江口　怜 (34) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	専	助教	江口　怜 (35) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		ボランティア実習			ボランティア実習			ボランティア実習			ボランティア実習			ボランティア実習
		教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール			教職基礎ゼミナール
		地域力再生論			地域力再生論			地域力再生論			地域力再生論			地域力再生論
		地域連携フィールド学習			地域連携フィールド学習			地域連携フィールド学習			地域連携フィールド学習			地域連携フィールド学習
		地域連携フィールドゼミナール			地域連携フィールドゼミナール			地域連携フィールドゼミナール			地域連携フィールドゼミナール			地域連携フィールドゼミナール
兼任	講師	奥野　庸己 (41) ＜平成31年4月＞ 法務博士（専門職）	兼任	講師	奥野　庸己 (42) ＜平成31年4月＞ 法務博士（専門職）	兼任	講師	奥野　庸己 (43) ＜平成31年4月＞ 法務博士（専門職）	兼任	講師	奥野　庸己 (44) ＜平成31年4月＞ 法務博士（専門職）	兼任	講師	奥野　庸己 (45) ＜平成31年4月＞ 法務博士（専門職）
		日本国憲法			日本国憲法			日本国憲法			日本国憲法			日本国憲法
兼任	講師	松本　健治 (71) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）	兼任	講師	松本　健治 (71) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）	兼任	講師	松本　健治 (72) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）	兼任	講師	松本　健治 (73) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）	兼任	講師	松本　健治 (74) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		ヘルスプロモーション科学			ヘルスプロモーション科学			ヘルスプロモーション科学			ヘルスプロモーション科学			ヘルスプロモーション科学
		人類生態学概論			人類生態学概論			人類生態学概論			人類生態学概論			人類生態学概論
兼任	講師	相川　真佐夫 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	相川　真佐夫 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	相川　真佐夫 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	相川　真佐夫 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	相川　真佐夫 (54) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）
		国際教育論			国際教育論			国際教育論			国際教育論			国際教育論
兼任	講師	大橋　眞由美 (68) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	講師	大橋　眞由美 (68) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	講師	大橋　眞由美 (69) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	講師	大橋　眞由美 (70) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	講師	大橋　眞由美 (71) ＜平成31年4月＞ 博士（人間科学）
		子どもと遊び			子どもと遊び			子どもと遊び			子どもと遊び			子どもと遊び
		子どもと文学			子どもと文学			子どもと文学			子どもと文学			子どもと文学
兼任	講師	小川　紘子 (80) ＜平成32年4月＞ ｿﾙﾎﾞﾝﾇ大学　博士 （比較文学）（ﾌﾗﾝｽ）	兼任	講師	小川　紘子 (79) ＜平成32年4月＞ ｿﾙﾎﾞﾝﾇ大学　博士 （比較文学）（ﾌﾗﾝｽ）	兼任	講師	小川　紘子 (80) ＜平成32年4月＞ ｿﾙﾎﾞﾝﾇ大学　博士 （比較文学）（ﾌﾗﾝｽ）						
		フランス語コミュニケーション			フランス語コミュニケーション			フランス語コミュニケーション						
兼任	講師	相川　恵 (52) ＜平成32年4月＞ 修士（文化学）	兼任	講師	相川　恵 (51) ＜平成32年4月＞ 修士（文化学）	兼任	講師	相川　恵 (52) ＜平成32年4月＞ 修士（文化学）	兼任	講師	相川　恵 (53) ＜平成32年4月＞ 修士（文化学）	兼任	講師	相川　恵 (54) ＜平成32年4月＞ 修士（文化学）
		中国語コミュニケーション			中国語コミュニケーション			中国語コミュニケーション			中国語コミュニケーション			中国語コミュニケーション
兼任	講師	福田　光男 (66) ＜平成31年4月＞ 教育学修士	兼任	講師	福田　光男 (66) ＜平成31年4月＞ 教育学修士	兼任	講師	福田　光男 (67) ＜平成31年4月＞ 教育学修士	兼任	講師	福田　光男 (68) ＜平成31年4月＞ 教育学修士	兼任	講師	福田　光男 (69) ＜平成31年4月＞ 教育学修士
		世界の中の和歌山			世界の中の和歌山			世界の中の和歌山			世界の中の和歌山			世界の中の和歌山
		道徳教育指導論			道徳教育指導論			道徳教育指導論			道徳教育指導論			道徳教育指導論
兼任	講師	小山　譽城 (68) ＜平成31年4月＞ 博士（歴史学）	兼任	講師	小山　譽城 (68) ＜平成31年4月＞ 博士（歴史学）	兼任	講師	小山　譽城 (69) ＜平成31年4月＞ 博士（歴史学）	兼任	講師	小山　譽城 (70) ＜平成31年4月＞ 博士（歴史学）	兼任	講師	小山　譽城 (71) ＜平成31年4月＞ 博士（歴史学）
		歴史・文化と風土			歴史・文化と風土			歴史・文化と風土			歴史・文化と風土			歴史・文化と風土
兼任	講師	柳瀬　充男 (60) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	柳瀬　充男 (60) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	柳瀬　充男 (61) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	柳瀬　充男 (62) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	柳瀬　充男 (63) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		郷土の自然			郷土の自然			郷土の自然			郷土の自然			郷土の自然
兼任	講師	濱田　智司 (57) ＜平成32年4月＞ 経済学士	兼任	講師	濱田　智司 (56) ＜平成32年4月＞ 経済学士	兼任	講師	濱田　智司 (57) ＜平成32年4月＞ 経済学士	兼任	講師	濱田　智司 (58) ＜平成32年4月＞ 経済学士	兼任	講師	濱田　智司 (59) ＜平成32年4月＞ 経済学士
		まちづくりの経済学			まちづくりの経済学			まちづくりの経済学			まちづくりの経済学			まちづくりの経済学
														実践キャリア教育
兼任	講師	平松　正昭 (68) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	平松　正昭 (67) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	平松　正昭 (68) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	平松　正昭 (69) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	平松　正昭 (70) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）
		文学と郷土			文学と郷土			文学と郷土			文学と郷土			文学と郷土

兼任	講師	馬場　一博 (68) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学）
		地域防災教育論
兼任	講師	西原　弘 (52) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		児童家庭福祉
兼任	講師	渡邊　充佳 (36) ＜平成32年4月＞ 修士（学術）
		社会福祉
兼任	講師	西端　幸信 (64) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		社会 初等教科教育法（社会）
兼任	講師	加藤　博之 (64) ＜平成33年4月＞ 体育学士
		幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ
兼任	講師	山本　玲子 (67) ＜平成33年4月＞ 短期大学卒
		保育の表現技術（言葉）
兼任	講師	内海　みよ子 (67) ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		子どもの保健ⅠA 子どもの保健ⅠB 子どもの保健Ⅱ
兼任	講師	土井　有美子 (67) ＜平成33年4月＞ 家政学士
		子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ
兼任	講師	桑原　徹也 (43) ＜平成33年4月＞ 学士（文学）
		社会的養護内容
兼任	講師	岸田　正幸 (62) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		教育方法論 教育課程総論
兼任	講師	花岡　隆行 (34) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		保育課程論
兼任	講師	山下　悦子 (73) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		保育内容総論 保育内容の指導法Ⅰ 保育内容の指導法Ⅱ
兼任	講師	栗林　惠 (70) ＜平成33年4月＞ 教育学修士
		乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ
兼任	講師	大平　誠也 (60) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		体育 初等教科教育法（体育）

兼任	講師	馬場　一博 (67) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学）
		地域防災教育論
兼任	講師	西原　弘 (52) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		児童家庭福祉
兼任	講師	渡邊　充佳 (35) ＜平成32年4月＞ 修士（学術）
		社会福祉
兼任	講師	西端　幸信 (63) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		社会 初等教科教育法（社会）
兼任	講師	加藤　博之 (62) ＜平成33年4月＞ 体育学士
		幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ
兼任	講師	山本　玲子 (65) ＜平成33年4月＞ 短期大学卒
		保育の表現技術（言葉）
兼任	講師	内海　みよ子 (66) ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		子どもの保健ⅠA 子どもの保健ⅠB 子どもの保健Ⅱ
兼任	講師	土井　有美子 (65) ＜平成33年4月＞ 家政学士
		子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ
兼任	講師	桑原　徹也 (41) ＜平成33年4月＞ 学士（文学）
		社会的養護内容
兼任	講師	岸田　正幸 (63) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		教育方法論 教育課程総論 **生徒指導・進路指導の理論と方法※**
兼任	講師	花岡　隆行 (34) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）
		保育課程論
兼任	講師	山下　悦子 (73) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		保育内容総論 保育内容の指導法Ⅰ 保育内容の指導法Ⅱ
兼任	講師	栗林　惠 (68) ＜平成33年4月＞ 教育学修士
		乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ
兼任	講師	大平　誠也 (59) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		体育 初等教科教育法（体育）

兼任	講師	馬場　一博 (68) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学）
		地域防災教育論
兼任	講師	西原　弘 (53) ＜平成31年4月＞ 社会学士
		子ども家庭福祉
兼任	講師	西端　幸信 (64) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		社会 初等教科教育法（社会）
兼任	講師	加藤　博之 (63) ＜平成33年4月＞ 体育学士
		幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ
兼任	講師	内海　みよ子 (67) ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		子どもの保健 **子どもの健康と安全**
兼任	講師	土井　有美子 (66) ＜平成33年4月＞ 家政学士
		子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ
兼任	講師	桑原　徹也 (42) ＜平成33年4月＞ 学士（文学）
		社会的養護演習
兼任	講師	岸田　正幸 (64) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		教育方法論 教育課程総論 **生徒指導・進路指導の理論と方法※**
兼任	講師	山下　悦子 (74) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		保育内容総論 保育内容の指導法Ⅰ 保育内容の指導法Ⅱ
兼任	講師	栗林　惠 (69) ＜平成33年4月＞ 教育学修士
		乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ
兼任	講師	大平　誠也 (60) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		体育 初等教科教育法（体育）

兼任	講師	馬場　一博 (69) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学）
		地域防災教育論
兼任	講師	西端　幸信 (65) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		社会 初等教科教育法（社会）
兼任	講師	加藤　博之 (64) ＜平成33年4月＞ 体育学士
		幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ
兼任	講師	内海　みよ子 (68) ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		子どもの保健 **子どもの健康と安全**
兼任	講師	土井　有美子 (67) ＜平成33年4月＞ 家政学士
		子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ
兼任	講師	岸田　正幸 (65) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		教育方法論 教育課程総論 **生徒指導・進路指導の理論と方法※**
兼任	講師	山下　悦子 (75) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		保育内容総論 保育内容の指導法Ⅰ 保育内容の指導法Ⅱ
兼任	講師	栗林　惠 (70) ＜平成33年4月＞ 教育学修士
		乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ
兼任	講師	大平　誠也 (61) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		体育 初等教科教育法（体育）

兼任	講師	馬場　一博 (70) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学）
		地域防災教育論
兼任	講師	西端　幸信 (66) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		社会 初等教科教育法（社会）
兼任	講師	加藤　博之 (65) ＜平成33年4月＞ 体育学士
		幼児体育Ⅰ 幼児体育Ⅱ
兼任	講師	内海　みよ子 (67) ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		子どもの保健 **子どもの健康と安全**
兼任	講師	土井　有美子 (68) ＜平成33年4月＞ 家政学士
		子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ
兼任	講師	岸田　正幸 (66) ＜平成31年4月＞ 文学修士
		教育方法論(ICT活用含む) 教育課程総論 **生徒指導・進路指導の理論と方法※**
兼任	講師	山下　悦子 (76) ＜平成31年4月＞ 教育学士
		保育内容総論 保育内容の指導法Ⅰ 保育内容の指導法Ⅱ
兼任	講師	栗林　惠 (71) ＜平成33年4月＞ 教育学修士
		乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ
兼任	講師	大平　誠也 (62) ＜平成32年4月＞ 教育学修士
		体育 初等教科教育法（体育）

兼任	講師	鈴木　晴久 (59) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	鈴木　晴久 (59) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	鈴木　晴久 (60) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	鈴木　晴久 (61) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	鈴木　晴久 (62) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）
		国語（書写を含む） 初等教科教育法（国語）			国語（書写を含む） 初等教科教育法（国語）			国語（書写を含む） 初等教科教育法（国語）			国語（書写を含む） 初等教科教育法（国語）			国語（書写を含む） 初等教科教育法（国語）
兼任	講師	芝田　史仁 (52) ＜平成32年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	芝田　史仁 (51) ＜平成32年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	芝田　史仁 (52) ＜平成32年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	芝田　史仁 (53) ＜平成32年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	芝田　史仁 (54) ＜平成32年4月＞ 博士（理学）
		生命と進化			生命と進化			生命と進化			生命と進化			生命と進化
兼任	講師	伊藤　宏 (57) ＜平成32年4月＞ 修士（新聞学）	兼任	講師	伊藤　宏 (56) ＜平成32年4月＞ 修士（新聞学）	兼任	講師	伊藤　宏 (57) ＜平成32年4月＞ 修士（新聞学）	兼任	講師	伊藤　宏 (58) ＜平成32年4月＞ 修士（新聞学）	兼任	講師	伊藤　宏 (59) ＜平成32年4月＞ 修士（新聞学）
		現代メディア論			現代メディア論			現代メディア論			現代メディア論			現代メディア論
兼任	講師	中根　真富 (60) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	中根　真富 (59) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	中根　真富 (60) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	中根　真富 (61) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	中根　真富 (62) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学）
		家庭※ 初等教科教育法（家庭）			家庭※ 初等教科教育法（家庭）			家庭※ 初等教科教育法（家庭）			家庭※ 初等教科教育法（家庭）			家庭※ 初等教科教育法（家庭）
兼任	講師	嘉本　知子 (60) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	嘉本　知子 (59) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	嘉本　知子 (60) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	嘉本　知子 (61) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	嘉本　知子 (62) ＜平成32年4月＞ 教育学士
		家庭※			家庭※			家庭※			家庭※			家庭※
兼任	講師	谷尻 治 (61) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	谷尻 治 (61) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	谷尻 治 (62) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	谷尻 治 (63) ＜平成32年4月＞ 教育学士	兼任	講師	谷尻 治 (64) ＜平成32年4月＞ 教育学士
		特別活動指導論			特別活動指導論			特別活動指導論			特別活動指導論			特別活動指導論
			兼任	**講師**	**市川　純夫 (72) ＜平成31年4月＞ 教育学修士**	**兼任**	**講師**	**市川　純夫 (73) ＜平成31年4月＞ 教育学修士**	**兼任**	**講師**	**市川　純夫 (74) ＜平成31年4月＞ 教育学修士**	**兼任**	**講師**	**市川　純夫 (75) ＜平成31年4月＞ 教育学修士**
					教育原理			**教育原理**			**教育原理**			**教育原理**
			兼任	**講師**	**北後　佐知子 (36) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）**	**兼任**	**講師**	**北後　佐知子 (37) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）**	**兼任**	**講師**	**北後　佐知子 (38) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）**	**兼任**	**講師**	**北後　佐知子 (39) ＜平成31年4月＞ 修士（教育学）**
					教育原理			**教育原理**			**教育原理**			**教育原理**
			兼任	**講師**	**犬塚　文雄 (68) ＜平成33年4月＞ 教育学修士**	**兼任**	**講師**	**犬塚　文雄 (69) ＜平成33年4月＞ 教育学修士**	**兼任**	**講師**	**犬塚　文雄 (70) ＜平成33年4月＞ 教育学修士**	**兼任**	**講師**	**犬塚　文雄 (71) ＜平成33年4月＞ 教育学修士**
					生徒指導・進路指導の理論と方法※			**生徒指導・進路指導の理論と方法※**			**生徒指導・進路指導の理論と方法※**			**生徒指導・進路指導の理論と方法※**
						兼任	**講師**	**太田　作也 (63) ＜令和2年4月＞ 社会学士**	**兼任**	**講師**	**太田　作也 (64) ＜令和2年4月＞ 社会学士**	**兼任**	**講師**	**太田　作也 (65) ＜令和2年4月＞ 社会学士**
								社会福祉			**社会福祉**			**社会福祉**
						兼任	**講師**	**高橋　多美子 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学）**	**兼任**	**講師**	**高橋　多美子 (54) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学）**			
								保育の計画と評価			**保育の計画と評価**			
						兼任	**講師**	**植田　喜樹 (35) ＜令和4年4月＞ 修士（臨床心理修士）**	**兼任**	**講師**	**植田　喜樹 (35) ＜令和4年4月＞ 修士（臨床心理修士）**	**兼任**	**講師**	**植田　喜樹 (36) ＜令和4年4月＞ 修士（臨床心理修士）**
								子ども家庭支援の心理学			**子ども家庭支援の心理学**			**子ども家庭支援の心理学**
									兼任	**講師**	**GODFROY ROBIN (50) ＜令和3年4月＞ Université Paris VII学士（文学）**	**兼任**	**講師**	**GODFROY ROBIN (51) ＜令和3年4月＞ Université Paris VII学士（文学）**
											フランス語コミュニケーション			**フランス語コミュニケーション**
									兼任	**講師**	**田中　和子 (63) ＜令和3年4月＞ 学士（教育学）**	**兼任**	**講師**	**田中　和子 (64) ＜令和3年4月＞ 学士（教育学）**
											子ども家庭福祉			**子ども家庭福祉**
									兼任	**講師**	**衣斐　哲臣 (63) ＜令和3年4月＞ 学士（文学士）**	**兼任**	**講師**	**衣斐　哲臣 (64) ＜令和3年4月＞ 学士（文学士）**
											社会的養護演習			**社会的養護演習**
												兼任	**講師**	**原　康行 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（学校教育学）**
														保育の計画と評価

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・　認可申請書又は設置届出書の様式第３号（その２の１）に準じて作成してください。
・「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼担教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で、**届可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・　年齢は、**それぞれの年度の５月１日時点の満年齢**を記入してください。
・　専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼担、兼任の順に記入してください。
・　不要な年度（令和２年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

・教職課程審査の結果、木本教授から「教育原理」を削除し、兼任市川純夫、兼任北後佐知子に変更。
・教職課程審査の結果、木本教授から「生徒指導・進路指導の理論と方法」を削除し、兼任岸田正幸、兼任犬塚文雄に変更。

【令和２年度】

・渡邊充佳兼任講師の就任辞退により、太田作也兼任講師に変更。
・花岡隆行兼任講師の辞任により、高橋多美子兼任講師に変更。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更による、「子ども家庭支援の心理学」追加により、植田喜樹兼任講師が令和4年4月就任。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、「幼児理解の理論と方法」を「講義」から「演習」に変更。村上凡子教授が担当。令和元年11月教員審査済。
・山本紀代講師の担当科目に「小学校実習」「小学校実習指導」を追加。令和元年11月教員審査済。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、森下順子准教授の担当科目に「子育て支援演習」を追加。令和元年11月教員審査済。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更による科目廃止により、森下順子准教授の授業科目「相談援助」と「保育相談支援」を削除。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、西原弘兼任講師の授業科目の名称を「児童家庭福祉」から「子ども家庭福祉」に変更。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更による、山本玲子兼任講師の授業科目「保育の表現技術（言葉）」を廃止により、令和4年度以降の就任不要。
・「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に基づく学則変更により、内海みよ子兼任講師の「子どもの保健ＩA」と「子どもの保健ＩB」を統合し「子どもの保健」に変更、「子どもの保健Ⅱ」を「子どもの健康と安全」に変更。同様に桑原徹也兼任講師の「社会的養護内容」を「社会体養護演習」に変更。

【令和３年度】

・小川紘子兼任講師の辞任により、GODFROY ROBIN兼任講師に変更。
・桑原徹也兼任講師の就任辞退により、田中和子兼任講師に変更。
・西原弘兼任講師の辞任により、衣斐哲臣兼任講師に変更。

【令和４年度】

・桐山由香専任講師の辞任により、令和4年4月八代健志専任准教授就任。令和3年8月教員審査済。
・高橋多美子兼任講師の辞任により、原康行兼任講師に変更。
・濱田智司兼任講師の担当科目に新規科目「実践キャリア教育」を追加。
・「教育職員免許法施行規則」の一部改正に基づく学則変更により、岸田正幸兼任講師の授業科目の名称を「教育方法論」から「教育方法論(ICT活用含む)」に変更。

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、
大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（令和２年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

（２） 専任教員数等

（２）－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
17 名	9 名

（注）・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

（２）－② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	助手（B'）
10	3	3	1	17	4	10	4	2	1	17	4
(10)	(3)	(3)	(1)	(17)	(4)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	助手（D'）
10	4	2	1	17	4	10	4	2	1	17	4
[0]	[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入**するとともに、
[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	9 名	10 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

（２）－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{17} = \boxed{100}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{9}{17} = \boxed{52.94}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{4}{4} = \boxed{100}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					

合計（D）				後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	講師	桐山　由香	令和4年3月	選択	音楽Ⅰ	①	家庭・家族の事情(4)
				選択	音楽Ⅱ	①	
				選択	器楽	①	
				選択	子どもの表現Ⅰ	①	
				選択	子どもの表現Ⅱ	①	
				選択	音楽表現研究	①	
				選択	保育内容実践研究	①	
				選択	保育・教職実践演者(幼)	①	
				必修	専門ゼミナールⅠ	①	
				必修	専門ゼミナールⅡ	①	
				必修	卒業研究	①	

合計（F）				後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
1 人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	8	科目	選択	8	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」
に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－③ 上記（３）－① ・ （３）－② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
1 人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	8	科目	選択	8	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目	計	0 科目

（３）－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{17} = 5.88\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）－⑤ 令和３年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

（注）・（３）－①、（３）－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

（３）－⑥　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				

合計													
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

（注）・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

前担当教員の研究分野は音楽分野であり、後任補充を行った新担当教員も音楽分野の教員で補充を行った。前担当から新担当への引継ぎは十分に行われており、また、令和4年度開講科目について、全学生にシラバスを配布し、周知している。また、「専門ゼミナールⅠ」「専門ゼミナールⅡ」「卒業研究」については科目特性を鑑み、特に入念に引継ぎが行われている。

（注）・ 上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
認　可　時 （平成30年）	実習巡回指導について、十分な指導を行うことができるよう、巡回指導を担当する専任教員数を増やし、指導体制を充実すること。また、助手が巡回する際には、実習指導教員との適切な連携のもと、業務に当たること。	遵守事項	実習巡回指導について、十分な指導を行うことができるよう、専任教員の中から実習担当者を新たに充て、指導体制の充実を図る。また、学内に教育実習担当者会議を組織することを教授会の議を経て学長が決定した。当会議の構成員には、実習指導教員、助手も加わり実習指導教員との適切な連携のもと、業務に当たれる環境を整備した。（元） 実習科目の指導体制充実に向け、令和元年度ＡＣ教員審査を受け、教員山本紀代を実習担当者に新たに充てた。また、学内に設けた教育実習担当者会議を中心とする連携強化を進め、実習指導教員に助手も加わり、実習指導教員との適切な連携のもと、業務に当たっている。（２） 教育実習担当者会議については、会議規程の整備を行い、学内における組織体制を明確にし、会議内の審議内容・結果等が運営会議等で報告される体制づくりを行っている。（面接調査を踏まえた追加確認事項）	履行中	実習巡回指導について、十分な指導を行うことができるよう、巡回指導を担当する専任教員数を増やし、指導体制を充実した。また、助手の巡回においても、実習指導教員と教育実習担当者会議を通して適切な連携のもと、業務に当たっている。
認　可　時 （平成30年）	学生募集を行う際に募集要項にコース定員を明記するなど、コースごとの募集人数の設定があることを明確にして、入学前の進路の選択に疑義が生じないように適切な措置を講じること。	遵守事項	学生募集を行う際に学生募集要項（資料１）にコース定員を示した。 これにより、コースごとの募集人数の設定があることを受験生に明確にし、入学前の進路の選択に疑義が生じないように適切な措置を講じた。（実施済み）（元）	履行中	本年度以降も、学生募集を行う際に募集要項等学生募集上の広報物にコース定員を明記していく。

認　可　時 （平成30年）	講義と演習の授業形態によって単位設定が異なるが、シラバスにおいて授業形態の明確な記載がないため、学生が授業科目を履修する際に各科目の必要とする学修時間が認識できない状況にある。授業内容に授業形態を明記するなど、学生が各科目の学修に必要とする内容を認識できるようにすることが望ましい。	留意事項	Webシステムと講義要項シラバス（資料2）を併用し、学生が各科目の学修に必要とする内容を認識できるよう配慮した。特に、全ての学生に配布したシラバスにおいて、講義と演習の授業形態および単位設定を明示するとともに、学生が授業科目を履修する際に各科目の必要とする学修時間が認識できるよう、「授業外の学習方法」の項目を設け、4月11日・12日の新入生オリエンテーションで詳しく解説した。（実施済み）（元）	履行済	本年度以降も、講義要項シラバスを作成する際、授業形態の明確な記載を行うとともに、「授業外の学習方法」の項目など、学生が各科目の学修に必要とする内容を認識できるようにする。
認　可　時 （平成30年）	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から４年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項	2019年2月9日と3月9日、全教職員を対象に研修会を行って、和歌山信愛大学の建学の精神・設置の趣旨・教育研究上の理念および目的等を共有した。同様に、4月1日全体会（教職員全員対象）において、学則等の周知を行った。4月15日、FD／SD委員会を開催し、4年制大学にふさわしい教育研究活動の実施とその水準向上に向けた進め方について検討した。（元） 新任教員のための研修会において、和歌山信愛大学の建学の精神・設置の趣旨・教育研究上の理念および目的等を共有し、取り組みを始めたことを踏まえ、授業方法の改善および学生サポートに資するための研修会を、6月24日と7月29日に実施した。また、教員相互の授業参観を、全ての専任教員を対象に11月21日～12月4日の期間において実施した。さらに、日本学術振興会や高等教育機関コンソーシアム和歌山等の研究助成事業に積極的に応募を行った。また、学内の不正防止体制を含む体制の構築や、研究者倫理教育についての研修会を9月30日に実施した。（２） 令和2年度の研修は、4月から新型コロナウイルス感染症対策のための遠隔授業に関する理解と技術向上に向けての研修会を行うなど、コロナ対策下においても5回の研修会を実施した。（３） 令和3年度においては、LGBTQについての理解を深めるための研修を実施するなど、コロナ対策下においても5回の研修会を実施した。（４）	履行中	FD／SD委員会を通じて、和歌山信愛大学の建学の精神・設置の趣旨・教育研究上の理念および目的等を共有し、授業方法の改善および学生サポートに資するための研修会を今後も実施していく。
設置計画履行状況調　査　結　果 （令和元年）	定年規程に定める退職年齢を超 える専任教員数の割合が高いことから，定年規程の趣旨を踏ま えた適切な運用に努めるとともに，教員組織編成の将来構想を 策定し，着実に実行すること。	指摘事項（改善）	定年を迎える専任教員については本学の教育上必要かつ 教育研究活動に適していることから、定年延長等の必要な 措置を講じている。（２）	履行中	完成年度以後の教員組織構想として、開設後4年間に中堅及び若手教員の育成状況を踏まえた学内昇格や新規採用などの教員組織に関する中期的な人事計画を検討している。定年年齢を超えて採用した教員の退職に伴う教員採用は、開設時の教育水準を維持・向上できる質の高い教員を確保するため、併設の短期大学教員や他大学等の現職教員及び大学院の修士課程や博士課程に在学している者を対象として、広く候補者を募ることとする。その際、本学の教員選考基準等で定める審査基準に基づき、厳格な審査を経て採用する。具体的には、定年年齢を超えて採用した教員8名を含め、完成年度に定年に達する教員は9名おり、そのうち4名は後進の指導においても余人に代え難いため本学校法人の定年規程により雇用を延長し、5名の教員の後任については、若手教員の採用や学内昇格を計画している。また、次の世代の指導者を育成するため教育学分野の准教授又は講師の補充を計画しており、配置計画は、 ①　准教授3名の教授昇格 ②　講師2名の准教授昇格 ③　助教1名の講師昇格 ④　併設の短期大学から1名採用 ⑤　公募により4名採用（平成34年公募、平成35年採用予定）以上の人事計画による、完成年度後の教員組織は、 教授　50代2名、60代以上8名、計10名 准教授　50代3名、計3名 （２）

設置計画履行状況 調　査　結　果 （令和2年）	小幼コース・幼保コースへの配属学生数について，設置計画で定められた定員を遵守するよう努めるとともに，必要に応じてコースの配置学生数に対応する教員配置の充実を検討すること。（教育学部子ども教育学科）	指摘事項 （是正）	小幼コース・幼保コースへの配属学生数について、設置計画で定められた定員を遵守するよう努める。また、コースの配置学生数に対応する教員配置を行う。 （３） 令和3年度の2年生に行ったコース決定について、小幼コース43名、幼保コース33名としたことで、定めた定員を遵守し、配置学生数に対応する適切な教員配置体制にて授業を行った。 （４）	履行中	令和3年度以降の2年生に行うコース決定については、設置計画に示している通り、小幼コース35名、幼保コース45名を考慮し、小幼コース（35名～45名）、幼保コース（35名～45名）以内に収めることにより設置計画で定めた定員を遵守し、配置学生数に対応する適切な教員配置体制にて授業を行っていく。（３） 令和4年度以降の2年生に行うコース決定についても同様に、小幼コース（35名～45名）、幼保コース（35名～45名）以内に収めることにより設置計画で定めた定員を遵守し、配置学生数に対する適切な教員配置体制にて授業を行っていく。（４）
設置計画履行状況 調　査　結　果 （令和2年）	教育課程の見直しを行うに当たっては，教育課程の質保証の観点から，より充実した内容となるように努めること。（教育学部子ども教育学科）	指摘事項 （改善）	教育課程の見直しを行うに当たっては、教育課程の質保証の観点からも、より充実した内容（授業構成）となるように努める。 （３）	履行済	
設置計画履行状況 調　査　結　果 （令和2年）	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから，定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに，定年規程により当面は雇用延長する者についても後任補充等の将来構想を策定し，着実に実行すること。（教育学部子ども教育学科）	指摘事項 （改善）	定年を迎える専任教員については本学の教育上必要かつ 教育研究活動に適していることから、定年延長等の必要な 措置を講じている。（３）	履行中	完成年度以後の教員組織構想として、開設後4年間に中堅及び若手教員の育成状況を踏まえた学内昇格や新規採用などの教員組織に関する中期的な人事計画を検討している。定年年齢を超えて採用した教員の退職に伴う教員採用は、開設時の教育水準を維持・向上できる質の高い教員を確保するため、併設の短期大学教員や他大学等の現職教員及び大学院の修士課程や博士課程に在学している者を対象として、広く候補者を募ることとする。その際、本学の教員選考基準等で定める審査基準に基づき、厳格な審査を経て採用する。 　具体的には、定年年齢を超えて採用した教員8名を含め、完成年度に定年に達する教員は9名おり、そのうち4名は後進の指導においても余人に代え難いため本学校法人の定年規程により雇用を延長し、5名の教員の後任については、若手教員の採用や学内昇格を計画している。また、次の世代の指導者を育成するため教育学分野の准教授又は講師の補充を計画しており、配置計画は、 ①　准教授3名の教授昇格 ②　講師2名の准教授昇格 ③　助教1名の講師昇格 ④　併設の短期大学から1名採用 ⑤　公募により4名採用（令和4年公募、令和5年採用予定） 以上の人事計画による、完成年度後の教員組織は、 教授　50代2名、60代以上8名、計10名 准教授　50代3名、計3名 （３）
設置計画履行状況 調　査　結　果 （令和3年）	定年規定に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから，定年規定の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに，定年規定により当面は雇用延長する教員についても，積極的な後任補充計画の策定に努めること。（教育学部子ども教育学科）	指摘事項 （改善）	定年を迎える専任教員については本学の教育上必要かつ 教育研究活動に適していることから、定年延長等の必要な 措置を講じている。（４）	履行中	完成年度以後の教員組織構想として、開設後4年間に中堅及び若手教員の育成状況を踏まえた学内昇格や新規採用などの教員組織に関する中期的な人事計画を検討している。定年年齢を超えて採用した教員の退職に伴う教員採用は、開設時の教育水準を維持・向上できる質の高い教員を確保するため、併設の短期大学教員や他大学等の現職教員及び大学院の修士課程や博士課程に在学している者を対象として、広く候補者を募ることとする。その際、本学の教員選考基準等で定める審査基準に基づき、厳格な審査を経て採用する。 　具体的には、定年年齢を超えて採用した教員9名を含め、完成年度に定年に達する教員は10名おり、そのうち4名は後進の指導においても余人に代え難いため本学校法人の定年規程により雇用を延長し、5名の教員の後任については、若手教員の採用や学内昇格を計画している。また、次の世代の指導者を育成するため教育学分野の准教授又は講師の補充を計画しており、配置計画は、 ①　准教授3名の教授昇格 ②　講師1名の准教授昇格 ③　助教1名の講師昇格 ④　併設の短期大学から1名採用 ⑤　公募により4名採用（令和4年公募、令和5年採用予定） 以上の人事計画による、完成年度後の教員組織は、 教授　50代4名、60代以上6名、計10名 准教授　40代1名　６０代2名、計3名 （４）

設置計画履行状況 調　査　結　果 （令和3年）	教育課程の編成上，教員免許を取得するために必修となる実習科目を履修することによって，インターンシップ科目を履修することができない設計となっていることから，教育現場と社会とのつながりや関係性を理解することの重要性に鑑み，社会に接し地域や現場に触れるカリキュラムの充実に努めること。 （教育学部子ども教育学科）	指摘事項 （改善）	教育課程の編成上、教員免許を取得するために必修となる実習科目を履修することによって、実習時期との重複により、インターンシップ科目を履修することができない状態となっていることについて、「インターンシップ（事前・事後指導を含む）」を3年次配当科目から2年次配当科目にすることで、実習科目との両立を可能とした。 また、教育現場と社会とのつながりや関係性を理解することの重要性に鑑み、社会に接し地域や現場に触れるカリキュラムの充実に努めるため4年次配当科目に「実践キャリア教育」を新規追加し、教育現場と社会とのつながりや関係性を理解し、社会に接し地域や現場に触れるカリキュラムを充実させた。（４）	履行済	

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7　その他全般的事項

＜教育学部　子ども教育学科＞

（1） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

① 実施体制

ａ 委員会の設置状況

教育の質的向上に向けた全学的な教育支援施策の企画・開発および職員研修の推進を行うため、自己点検評価委員会を設置した。

ｂ 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和元年度自己点検評価委員会を8回開催した。出席者は副学長、学長補佐、学科長、教学センター長、学生委員長、図書館長、アドミッションオフィス長、事務長である。

令和2年度自己点検評価委員会を3回開催した。出席者は副学長、学長補佐、学科長、教学センター長、学生委員長、図書館長、アドミッションオフィス長、事務長である。

令和3年度自己点検評価委員会を2回開催した。出席者は副学長、学長補佐、学科長、教学センター長、学生委員長、図書館長、きょう育の和センター長、わかやま子ども学総合研究センター長、アドミッションオフィス長、事務長である。

ｃ 委員会の審議事項等

FD・SDの進め方について、特に授業方法の改善に資するための研修会、および教員相互の授業参観について審議した。

② 実施状況

ａ 実施内容

- 建学の精神について
- 人権についての研修会
- 教育研究についての研修会
- 教員相互の授業参観
- FD／SD活動報告

ｂ 実施方法

- 全ての専任教員・職員を対象に集合研修の形で実施。
- 教育研究についての研修会を、全ての専任教員・職員を対象に集合研修の形で実施。
- 教員相互の授業参観を、全ての専任教員を対象に実施。

c　開催状況（教員の参加状況含む）

【令和元年度】

- 全教職員を対象にした建学の精神に関する研修会を、2019年6月24日と7月29日に実施し、ほぼ全ての教職員が参加した。
- 教育研究についての研修会を、9月30日に実施した。
- 11月21日（木）～12月4日（水）の期間において教員相互の授業参観を、全ての専任教員を対象に実施した。
- 教育研究についての研修会を、9月30日に実施した。
- 2月17日（月）地域に根ざした教育研究―センター及び事務部門等から報告した。

【令和2年度】

- 新型コロナウイルス感染症対策下における「遠隔授業実施についての研修」を2020年4月3日に実施、教職員ともに参加した。
- 全教職員を対象にした建学の精神に関する研修会を、2020年6月22日に実施し、ほぼ全ての　教職員が参加した。
- 教育研究についての研修会を、2020年9月14日に実施した。
- 11月30日（月～12月11日（金）の期間において教員相互の授業参観を、全ての専任教員を対象に実施した。
- 3月22日（月）新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下での授業等について事務部門等から報告した。

【令和3年度】

- 全教職員を対象にした建学の精神に関する研修会を、2021年5月31日に実施し、全ての教職員が参加した。
- LGBTQ（人権）に関する研修を、2021年7月26日に実施し、全ての教職員が参加した。
- 教育研究についての研修会を、2021年8月16日に実施した。
- 2021年11月24日～26日の期間において教員の授業参観を実施し、全ての専任教員が参加した。
- 2022年3月14日に2021年度のまとめとして、各委員会及び事務部から活動報告を行った。

d　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- 和歌山信愛大学の建学の精神・設置の趣旨・教育研究上の理念および目的等を共有し、取り組んでいる。
- 令和2年度には、教員相互の授業参観を、全専任教員を対象に実施し、授業改善を進めている。
- 令和3年度には、専任教員によるモデル授業の参観を、全専任教員を対象に実施し、授業改善を進めている。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

実施有、授業の末1回実施（前期・後期、通期科目は後期に実施）

b　教員や学生への公開状況、方法等

大学ホームページ、図書館にて公表。また、ホームページにて本学図書館で授業評価が公表されていることを公表しています。

（注）・「①a　委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4） 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・計画通り、31年4月に開学し、採用予定の教職員の着任はもとより83名の入学者を迎えた。

・令和2年5月1日時点において2年生82名（令和元年度中1名退学）、及び令和2年度入学生82名を迎えた。

・令和3年5月1日時点において3年生82名（令和元年度中1名退学）、2年生79名（令和2年度中2名退学、1名原級留置）、及び令和3年度入学生68名を迎えた。

・令和4年5月1日時点において4年生82名（令和元年度中1名退学）、3年生76名（令和3年度中2名退学除籍、令和2年度中2名退学、1名原級留置にて2年生に）、2年生69名（令和3年度中1名原級留置にて1年生に）、及び令和4年度入学生68名を迎えた。

・令和3年度末にて専任教員1名退職しましたが、令和4年度4月より1名の教員補充を行い、設置計画通りの教員体制を維持している。

・入学者選抜においては、令和3年度にひきつづき令和4年度も入学者は68名であった。本学への入学意向の高い受験生を確保しましたが、定員（80名）確保に至らず。本来であれば進学相談会、オープンキャンパス等の対面のイベントにおいて、受験生ひとりひとりの進学意向や希望する職業などを、細かく把握し募集活動を行う予定でしたが、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症対策実施等の為、十分な募集活動ができなかった。また、就職実績がまだないことも受験生及びその保護者の信頼をまだ得られていないと分析している。よって、令和5年度（令和5年度入学生）の募集に関しては、これまでに本学に入学した学生の所属する高等学校の教員とも連携をより密にし、令和4年度の4年生の就職動向の経過実績を募集活動に活かしていく予定である。

・入学者はほぼ全員が「小学校教諭」「幼稚園教諭」「保育士」のいずれか、または複数の資格取得をめざし、卒業後は教育者として県内外において子ども教育の分野での進路を希望していることを把握している。

・教員の活動について　学生の希望する進路の実現にむけた教育活動のみならず、研究者としての自己の研鑽を積み、和歌山の子ども教育分野における学術の発展のための研究活動についてもHP用研究者情報等で公開中である。

② 自己点検・評価報告書

ａ 公表（予定）時期

・完成年度の翌年度早々（令和5年）の公表を予定している

ｂ 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行予定（令和5年度予定）

・大学ホームページ上に公開予定（令和5年度予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和７年度までに評価機関（公益財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく検討する。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5） 情報公表に関する事項

○　設置計画履行状況報告書（令和４年度）

ａ　公表予定の有無　〔　（有）　・　無　〕

≪ａで「有」の場合≫

ｂ　公表（予定）時期　〔　調査結果公表後１ヶ月以内　・　公表後２～３ヶ月以内　・　（公表後３ヶ月以降）〕

ｃ　公表方法　〔（ウェブサイトへの掲載）　・　その他（　　）　〕

≪ａで公表「無」の場合≫

ｄ　公表しない理由　〔　　〕

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。